

---

# 遊戯王 蒼い竜の痣を持つ者

セロリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 蒼い竜の痣を持つ者

### 【Nコード】

N4266V

### 【作者名】

セロリ

### 【あらすじ】

おつすオラ雄吾、テンプレどおり神様に殺されて転生したぞオラめちやくちや弱いけど、死亡フラグが乱立する原作世界で生きていけるかな？？

初投稿ではありません、しかし更新スピードが遅くつまらないかも知れませんが読んでいただけるとありがたいです

## 第一話 プロローグと初めての決闘（前書き）

初めまして、セロリです

転生の遊戯王小説です

読んで頂けると嬉しいです

## 第一話 プロローグと初めての決闘

何もない

それが俺の感想だった

前後左右上下

四方八方を見渡してみたが  
何も無い白い空間が広がっていた

そんなとき空間に扉ができて  
中から少年が出て来た

「あなたは死んでしまいました  
もう一度人生やり直して見ませんか？」

「どこのカラフル！！」

「ネタじゃダメですか」

少しの沈黙

「僕は天使です、あなたは神の手違いで死んでしまいました、  
ので転生のチャンスをと・・・  
ちなみに世界は遊戯王です」

「どの時代だ？」

「すきなのを選んで貰ってかまいませんが」

「5Dsでたのむ」

「分かりました

ではいつてらっさい」

地面に穴が空いた

「ちょい待てーーーーー！ー！ー」

俺の叫びはきえていった

視点 遊星

ゴドウィンとの決闘も終わった、後はシティに帰るだけだ

「さあ、帰ろう俺たちの家へ」

そう言った、瞬間俺たちの前に氷柱ができた

「何だ??？」

その時氷柱が砕け散り、中から少年がでけた

「もう転生したのか？」

視点 ????

「もう転生したのか？」

目の前には遊星達がいた周りを見渡す

ああこの感じはゴドウィンとの決闘の後だな

「お前は誰だ??」

そう言つて遊星が決闘版を構える

「手荒い歓迎だな、俺の名前は関原 雄吾だ」

そう言つて俺も何故か右手についていた決闘版を構える

「後は決闘で語り合つのみ」

「「決闘」」

「俺のターン、ドロー!!」

俺はモンスターをセットそしてカードを一枚伏せて、フィールド魔法ネクロバレーを発動する」

フィールドがエジプト??の様になる

「ネ、ネクロバレーだつて」

遊星が声を上げる

「なんだと、ネクロバレーなんていつたら幻とも言われる墓守と言うカードのサポートフィールド魔法じゃねえか!!」

クロウが叫んだ

「そして魔法カード発動、王家の生け贄こいつの効果はお互いの手札にあるモンスターカードを全て墓地に送る」

「なんだと!？」

「インチキ効果も大概にしゃがれ」

「うるせー、こういう効果なんだよ俺は手札暗黒界の狩人ブラウと暗黒界の武神ゴールドを墓地に送りブラウの効果で一枚ドロー!!!さらにゴールドの効果で特殊召喚」

「俺はボルトヘッジホッグとドッペルウォリアーを墓地に送る」

なんだって、それは不味いな

「ターンエンドだ」

「俺のターンドロー!!!俺は増援を発動デッキからジャンクシンクロンを手札に加え召喚、効果で墓地のドッペルウォリアーを特殊召喚する」

その時、俺の決闘版の表示がエラーになった

「なんだ!？」

「ネクロバレーの効果だ、このカードが存在するかぎりお互いは墓地のカードを対象に取ることが出来ず、墓地のカードを除外することも出来ない」

「なんだと、なら俺はジャンクシンクロンをリリースしてターレットウォリアーを特殊召喚する」

なんてドローだよ

「俺はターレットウォリアーで伏せモンスターを攻撃」

「リバーズ効果墓守の偵察者、効果でデッキからもう一体の墓守の偵察者を特殊召喚する」

偵察者がターレットウォリアーの射撃を受け流した

「そのモンスターの守備力は2000なんで破壊されないんだ??」

「ネクロバレーなんていったら効果だ、墓守の攻撃力、守備力を500ポイントアップさせる」

「なるほど、その効果で守備力がターレットウォリアーの攻撃力と同じになったのか」

遊星は納得した様子でそう言った

「カードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー、俺はモンスターをセットターンエンド」

「俺のターンドロー、セットモンスターを攻撃」

「リバーズ効果メタモルポットだ、お互い手札を全て墓地に送り5

枚ドローする」

「俺の手札も増やしていいのか??」

「ああ、問題ない」

「カードを一枚伏せて、ターンエンド」

「俺のターンドロー、グローアップバルブを召喚、偵察者にグローアップバルブをチューニングシンクロ召喚A O Jカタストル  
そしてデッキの一番上を墓地に送り、グローアップバルブを特殊召喚する!!!」

さらに墓地に眠る先鋭のゼピュロスの効果、ネクロバレーを手札に戻して特殊召喚する」

「BFだと!!!」

「驚いたか??」

そして偵察者とゼピュロスにグローアップバルブをチューニングシンクロ召喚氷結界の龍!!!」

急に体が、重くなった、そして俺は倒れた

視点遊星

「シンクロ召喚氷結界の龍!!!」

あいつがそう言った瞬間、あいつの額に紋章みたいなのが現れた  
そして急にふらついたと思っただらあいつは倒れた

「大丈夫か!!!」

俺は心配してあいつに近づいた

「大変、この人意識がないわ!!」

「早くシティに運ぶぞ」

こうして俺達は関原 雄吾を連れてシティに戻った

## 第一話 プロローグと初めての決闘（後書き）

誤字脱字、感想とつよろしくお願いします

## 主人公紹介+デツキ紹介(前書き)

主人公の紹介です

他のオリキャラがでたらこのあとに更新していきます

## 主人公紹介＋デッキ紹介

関原 雄吾

14歳

もともと決闘が大好きな中学生だった

他の決闘者を馬鹿にするやつら、カードを屑よばわりする奴等が大嫌いです

頭はそこそこで、運動もそこそこ出来る

いたって平凡な人間である

蒼い痣のシグナーの一人

デッキ紹介

スキドレ墓守暗黒界

墓守の偵察者×3

墓守の司令官×2

墓守の末裔×2

メタモルポット

暗黒界の龍神グラファ×2

暗黒界の武神ゴルド

暗黒界の軍神シルバ

暗黒界の狩人ブラウ×2

グローアップバルブ

BFI疾風のゲイル

BFI先鋭のゼピュロス

計16枚

闇の誘惑

ハリケーン

サイクロン

王家の生け贄×2  
月の書  
ネクロバレー×3  
計9  
スキドレ×2  
奈落の落とし穴×2  
聖なるバリア  
魔宮の賄賂×2  
神の宣告  
マインドクラッシュ  
ダストシュート  
激流葬  
盗賊の七つ道具  
トラップスタン  
降霊の儀式  
計14

カタストル  
メンタルスファイアデーモン  
マジカルアンドロイド  
Cドラゴン  
氷結界の龍トリシューラ  
大地の騎士ガイアナイト

これは作者のデッキほぼそのままです  
ゼピュロスが高くて持ってないだけです

主人公紹介＋デツキ紹介（後書き）

ゼピュロスが欲しいです

感想とつよろしくお願いします

## 第二話 絶望の来襲VSデイスペア（前書き）

見てる人は居ないかも知れませんが  
連日投稿です、よろしくお願ひします

## 第二話 絶望の来襲VSディスプレイ

病院

「彼が最後にシンクロ召喚しようとしたモンスターって」

秋が俺に聞いて来た

「ああ、恐らくこの世界に一枚づつしか存在しないとされている氷結界のシンクロモンスターだ」

「やっぱりそうよね、彼が起きたら聞いて見ましようか??」

「そうしよう」

その時、外から殺気がした

「誰だ!!」

背が高く、威圧感がある男が立っていた

「不動 遊星だな??ここに、氷結界のシンクロモンスターを持つ者はいるか」

「ああ、ここにいるが何が目的だ??」

「不動 遊星、お前に目的を教える必要はない」

「お前は何者だ!!」

「私の名はデイスペア、この世界を作り直す者だ」

「お前の目的はなんだ??」

「お前達シグナーそして蒼い痣のシグナーを倒す事だ」

「蒼い痣のシグナーについては知らないが、俺達の敵であるなら戦うしかない」

「「決闘」」

「私のターンドロー、合成獣ーシルバーデーモンを召喚」

合成獣ーシルバーデーモン

効果・キメラ 1800 1200

このカードと自分フィールド上に存在するキメラモンスターをゲージから除外する事で効果を発動する

自分のフィールド上に合成獣「エリクシルデーモン」を特殊召喚する

「カードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー、調律発動デッキからクイックシンクロンを手札に加える。そしてデッキの一番上のカードを墓地に送る」

「手札を一枚捨ててクイックシンクロンを特殊召喚する。そして墓地に存在するレベルステイラーの効果発動

クイックシンクロンのレベルを一下げること特殊召喚する。

チューニング 集いし星が 新たな力を呼び起こす シンクロ召喚  
現れる

ジャンクウォリアー」

「そしてニトロシンクロンを召喚、  
墓地に存在するレベルステイラーを特殊召喚、さらに墓地に存在する

ポルトヘッジホッグの効果で特殊召喚

三体のモンスターをチューニング

集いし星が 真紅の矢となり大地を貫く

シンクロ召喚 打ち抜け ニトロガンナー

シンクロ素材に使用されたニトロシンクロンの効果で一枚ドロー」

ニトロガンナー

シンクロ・効果 レベル5

1900 2700

「ターンに一度相手フィールド上に存在するモンスターを選択して発動する

そのモンスターを墓地に送る

この効果を使用したターン自分はバトルフェイズを行うことができ

ない

「バトル、ジャンクウォーリアで攻撃スクラップフィスト」

「甘い、トラップ発動金の輝き」

金の輝き

相手の攻撃宣言じに発動出来る

その攻撃を無効にしてバトルフェイズを終了させる

そして手札から合成獣ーゴールドファンクを特殊召喚する

合成獣ーゴールドファンク

効果・キメラ 2200 1200 レベル5

このカードと自分フィールド上に存在するキメラモンスターをゲムから除外する事で効果を発動する

自分のフィールド上に合成獣ーエリクシルファンクを特殊召喚する

「ターンエンドだ」

「私のターンドロー、合成獣ーゴールドファンクの特​​殊効果発動

このカードと合成獣ーシルバーデーモンを除外して合成獣ーエリクシルファンクを特殊召喚する」

虹色に輝くライオンが現れた

「そして合成獣ーダイヤモンドタートルを召喚する」

合成獣ーエリクシルファンク

融合・効果・キメラ 2700 2400

このカードが守備表示モンスターを攻撃する時  
攻撃宣言を行わずそのモンスターを破壊する

このカードが効果で破壊された時除外されている合成獣「ゴールド  
ファンング」を特殊召喚する

合成獣「ダイヤモンドタートル」

効果・キメラ 400 2500

このカードと自分フィールド上に存在するキメラモンスターをゲ  
ムから除外する事で効果を発動する

自分のフィールド上に合成獣「エリクシルタートル」を特殊召喚する

「バトル、まずはニトロガンナーを攻撃ファンング・ザ・デイスペア  
そして合成獣「エリクシルファンング」の効果発動攻撃宣言を行わずニ  
トロガンナーを破壊する」

「何だど!!ではもう一度そのモンスターで攻撃出来るということ  
か!!」

「インチキ効果も大概にしゃがれ」

「なんとも言え、行け破壊獣の牙

そしてそのままジャンクウォーリアを攻撃ファンング・ザ・デイス  
ペア

「くっ」

LP3600

「カードを伏せてターンエンドだ」

守備モンスターを出しても負ける、いまの手札ではどうにもならない

「デッキよ応えてくれ、俺のターンドロー!!」

来てくれた

「おれはシンクロンエクスペローラーを召喚、効果で墓地のクイックシンクロンを特殊召喚する

レベル2シンクロンエクスペローラーにレベル5クイックシンクロンをチューニング集いし怒りが忘我の戦士に鬼神を宿す。光さす道となれシンクロ召喚吠える ジャンク・バーサーカー」

俺のフィールドに鬼神が現れる

「ジャンクバーサーカーの効果発動、墓地のジャンクウォリアーを除外して合成獣エリクシルファングの攻撃力を2300ポイントダウンさせる」

2700 400

「何!!」

これまで何も顔に出さなかったディスプレイだがこれには驚く

「ジャンクバーサーカーで攻撃バーサークラッシュ」

「グワアアアア」

LP4000 1700

「よっし!」

「さすがだ遊星、どうやらこれ以上はか体がもたないようだ  
不動 遊星、次は決着をつけよう  
さらばだ!」

ディスプレイが消えて行った

「何だったんだやつは」

ジャックが聞いてくる

「わからない、だが雄吾なら知っているかもしれない」

「ならばあいつが起きるまで待つしかないか」

こうして遊星の未知の決闘者との決闘は中断に終わった

## 第二話 絶望の来襲VSディスプレイ（後書き）

よく考えたら、この小説での決闘って中断にしかかってないという  
絶望

まあ、ストーリー上仕方ないんですけどね  
オリカたくさん出しました  
オリカ募集中ですよろしくおねがいします

感想とつよろしく願います

第三話 急展開VSジャック(改)(前書き)

タイトル道理ジャックとの決闘です  
それではどうぞ

誤字と台詞間違えがありました、すいません

### 第三話 急展開VSジャック(改)

病院

「……は?..」

俺はどうやら病院にいたようだ

「気がついたか??」

「ゆ、遊星!??」

「君にいくつか聞きたいことがある」

「なんででしょうか??」

遊星が聞きたい事??

「君が持っている氷結界のシンクロモンスターの事とディスプレイと言う男の事だ」

「ディスプレイと言う男についてはしりませんが、氷結界のシンクロモンスターってこれのことですか??」

そう言つて、俺はデッキケースに入っているトリシューラを取り出した

「すげえ、本物だ!..」

龍亜が驚いている

向こうでもレアだったけど、こっちでもレアなのか

「そのカードだ、氷結界のシンクロモンスターは世界に一枚づつしか存在しない、そのモンスターを君はどうやって手に入れたんだ？」

そんな大切なカードなのか！！

どうしよう本当の事は言えないし・・・

「すみません、それは言えません」

「そうか、それは仕方無い

人間一つぐらい言いたく無い事はあるだろう」

そう言っつて下を向いた

ああ、多分旧モーメントの暴走の事を思い出しているのかな

「君は宿はあるのかい？？」

そういえば

「ありません」

「そうか、なら一緒に来るか？？」

視点遊星

「そうか、なら一緒に来るか？？」

一緒に暮らせば、心を開いてくれるかも知れない、そうすれば、いつかきつと話してくれるだろう

「甘いぞ遊星、

貴様俺と決闘しろ！！

貴様が負けたら全てを教える！！

俺が負けた場合は、貴様に宿を貸してやるぞ」

な、何を言っただジャック！！

俺の計画を台無しにする気か！！

「なんか、勝手に話しが進んでいるんですけど

まあイイですよ、それに勝てばタダで宿貸してくれるんですよ？

？」

「ああ、キングに二言は無い」

もうお前はキングじゃ無いんだよジャック

「ここでは、出来ないから外に出るぞ」

「イイですよ」

病院 外

ジャックがデッキをいじっている

ネクロバレー対策か??

「行きますよ」

「決闘」

「俺のターンドロー!!」

俺は手札の水族モンスターを墓地に送って、鬼ガエルを特殊召喚する」

水族モンスター??

「どう言う事だ!! 貴様のデッキは墓守では無いのか!!」

そのとうりだ

「俺はデッキを四つ持っているんですよ」

なんだと!! 複数のデッキを使うのになるほど、それは対策を立てれないな

「鬼ガエルの効果で、デッキから粹カエルを墓地に送ります  
そしてジャンクシンクロンを召喚、効果で墓地の未知ガエルを特殊  
召喚する」

「そんなモンスターいつ墓地に送ったのだ!!」

「最初の鬼ガエルのコストです  
レベル2未知ガエルにレベル3ジャンクシンクロンをチューニング  
シンクロナ召喚カモンAOJカタストル」

「そして、墓地の未知ガエルを除外して墓地の粹カエルを特殊召喚  
する」

「カードを二枚伏せてターンエンドです」

「俺のターンドロー!!!」

俺はバイスドラゴンを特殊召喚する、さらにダークリゾネーターを召喚

レベル5バイスドラゴンにレベル3ダークリゾネーターをチューニング

王者の鼓動 今ここに列をなす

天地鳴動の力を見るがいい

シンクロ召喚 我が魂

レッドデーモンズドラゴン!!!」

ジャック、なんかいつもそのペアが手札に揃ってないか??

「さすがキング(笑)速いですね、しかしその召喚は許しませんトランプ発動、奈落の落とし穴」

「き、貴様我がレッドデーモンズドラゴンを除外した事を後悔させてやる!!!」

カードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー!!!俺は鬼ガエルを自身の効果で手札に戻します、そしてそのまま特殊召喚!!!効果で粹カエルを墓地に送りますそしてデブリドラゴンを召喚、効果でスノーマンイーターを特殊召喚する

行くぞ!!!」

あいつの額に紋章が現れる

あの時と同じだ!!!

「レベル2 鬼ガエルとレベル3 スノーマンイーターにデブリドラゴンをチューニングレベル9 シンクロ召喚  
カモン氷結界の龍!!」

あの時と全く同じじゃないか、あいつが今にも倒れそうだ

「大丈夫「くるな!!」なんでだ!!」

近寄ろうとする俺を、あいつが止める

「俺は、こいつを使いこなさないと行けないんだ!! 行くぞ  
カモン氷結界の龍トリシューラ!!」

三首の白銀の龍が現れる

「き、綺麗」

龍可がそういった

その瞬間、凄い冷気が周りを覆った

「な、何だ!!」

「氷結界の龍トリシューラの効果を発動!! 右の伏せカードとバイ  
スドラゴン、そして左の手札を除外する」

「三枚も!!」

なんて効果だ、これじゃあスターダストドラゴンの効果でも無効にも出来ないじゃ無いか!!

「くっ！！闇次元の開放が！！」

やはりレッドデーモンズドラゴンを出そうとして居たのか

「行くぞ！！カタストルで攻撃、ダークネスカタストロフィー、トリシューラで攻撃、破滅槍・トリシューラ！！」

「かかったなトラップ発動聖なるバリ「トラップスタン発動！！」何だと！！」

ジャック、終わったな

「こういう時は・・・

ガツチャ、楽しい決闘だったぜ」

「くそつ仕方無い、貴様の事も聞きはせん、そして宿も貸してやる  
う」

「やったぜ！！」

もう冷気も収まっている、さっきの冷気は何だったんだ？？

視点？？？

今の感じは

また一人蒼い痣のシグナーが来たんだね？

視点？？？

へえ、また転生者が来たのか

そいつが持っているのはブリユかなトリシューかな

視点???

ふむ

また新たな覚醒者が現れたか  
ワシもその者の所へ向かわないといかな

視点 雄吾

何だっただんだ??あの感じは

まだ頭が痛えや

あっ勢いで攻撃名叫んじまった  
は、恥ずかしい

### 第三話 急展開VSジャック(改)(後書き)

攻撃名を叫んでしまった厨二病になりかけの主人公  
そして最後に出て来たオリキャラがどうこれからのストーリーに加  
わって行くのか

感想、オリカとう募集中ですよろしくお願いします

## 第四話 氷上決闘VSフリーナク！！（前書き）

オリキャラが出ます

デッキの回し方が分からなくて、決闘がつまらないかも知れませんが、  
でわ、どうぞ

## 第四話 氷上決闘VSブリューナク！！

病院

うーん、今日もいい朝だなあ  
つて！！寒っ！！

まだ、秋なのに

俺は、窓を開けた

「なんで雪が降ってんだよ!?!」

俺は、テレビをつけた

『今日の天気は突然の異常気象で、大雪になっております  
雪崩とうにご注意ください』

まじかよ

「起きたか??」

俺の病室に遊星が入って来た

「遊星、朝からこんな天気なのか??」

「いや、正確に言うと雄吾が倒れてからだ」

結局、俺はあの決闘の後疲れて倒れたらしい

「あの時感じた、冷気が原因なのかもしれない」

「冷気??」

「雄吾がトリシューラを召喚した時に感じたんだ」

まじかよ

「おつ邪魔しまゝす?」

「誰だ??」

俺の病室に女性が入って来た  
突然頭が痛み出した

「僕はねえ、佐藤 友希って言うんだ?  
そこの君が蒼い痣のシグナーだね?」

俺を指差してそう言って来た

「ど、どう言う事だ??」

「そのまんまだよ、君の額の紋章がそう示しているじゃ無いか?」

マジか!?

紋章なんて俺の額に出ていたのか!?

そう俺が考えて居たら、友希の額からも紋章が現れた

「僕もそうだよ、君はその様子を見るとまだ力をコントロール出来

てないようだね？  
戦いの邪魔になるくらいなら、僕にカードを渡してくれないかい？  
」

友希の言いたい事も分かる

命懸けの戦いをするなら、今の俺では足でまといだ

「君が必要かどうか試させて貰うよ？」

「決闘をするなら外出やるぞ」

「イイよ？」

病院 外

「「決闘」」

「僕の先攻ドロロー？僕は手札断殺発動！！お互いははカードを二枚捨てて二枚ドロロー」

いきなり手札交換??

いや！！違う、友希の目的は多分墓地肥やしだ！！

「そして手札を一枚捨ててクイックシンクロンを特殊召喚する  
さらにコストで捨てたダンディライオンの効果で綿毛トークンを二  
体特殊召喚する」

友希のデッキはクイックダンディか！！

「そして綿毛トークンにクイックシンクロンをチューニング

シンクロ召喚こいドリルウォリアー」

ドリルってイイですね、って俺は何を言っているんだ??

「モンスターをセットし、カード二枚伏せてターンエンド?」

「俺のターンドロ―!!」

ネクロバレーを発動する!!」

まずは、墓地封じだ!!

さあ、どう来る??

「モンスターをセットし、カードを二枚伏せてターンエンド」

「僕のターンドロ―?」

サイクロン発動?ネクロバレーを破壊するよ?」

ネ、ネクロバレーが!!

「さらに僕はメタモルポットをリバースするよ?」

「なら俺はブラウの効果でさらに二枚ドロ―する」

「どうぞ、墓地のグローアップバルブの効果でデッキトップを墓地に送り特殊召喚?さらに手札のドッペルウォリアーを特殊召喚、レベル1綿毛トークンにレベル1グローアップバルブをチューニングシンクロ召喚

こいフォーミュラーシンクロン?」

不味い、不味い、不味い

「効果で一枚ドロロー？」  
さらにレベル2ドッペルウォリアーとレベル2メタモルポットにレベル2フォーミュラーシンクロンをチューニングシンクロ召喚　マ  
イフェイバリットカード氷結界の龍ブリューナク？」

友希の額に紋章が現れた

「さらにドッペルウォリアーの効果でドッペルトークンを二体特殊  
召喚？手札を一枚デッキトップに戻してゾンビキャリアを特殊召喚？  
二体のドッペルトークンにゾンビキャリアをチューニング  
シンクロ召喚こいアームズエイド？」

シンクロモンスターのオンパレードだな

「ブリューナクの効果発動？  
手札を三枚捨てて全てのカードを手札に戻すよ？」

「トランプ発動、スキルドレイン！！」

「ありやりや、不発になっちゃったか？」

余裕見たいですね

「墓地のグローアップバルブを除外してスポーアを特殊召喚？  
レベル4アームズエイドにレベル1スポーアをチューニングシンク  
ロ召喚  
こいTGIハイパーライブラリアン？」

嘘だろ！？

「T G ーハイパーライブラリアンでセットモンスターを攻撃、ライブラリーマジック？」

やっぱり、攻撃名って普通なんだね

「トラップ発動、聖なるバリアーミラーフォース！！」

「ありやりや？メインツィで死者蘇生でブリューナクを復活？……  
ターンエンド？」

何を考えていたんだ？？

「俺のターンドロー！！スキルドレインを手札に戻して効果発動、舞い上がれ先鋭のゼピュロス、反転召喚墓守の偵察者、効果で偵察者を特殊召喚する」

これで準備は整った

「グローアップバルブを召喚、レベル4偵察者にレベル1グローアップバルブをチューニングシンクロ召喚 カモン

A O J カタストル！！

さらにデッキトップを墓地に送ってグローアップバルブを蘇生」

俺の額が光を放つ

「レベル4先鋭のゼピュロスとレベル4偵察者にレベル1グローアップバルブをチューニングシンクロ召喚 カモン  
氷結界の龍トリシューラ！！」

三首の白銀の龍と蒼き海竜が睨み合う

「伏せカードと手札、そして墓地のドッペルウォリアーを除外する、相手の最強モンスターを倒してこそ相手へのダメージは大きい！  
ライフダメージ！そして精神的ダメージも！！  
トリシューラで攻撃、破滅槍・トリシューラ！！」

伏せカードを使わずにブリューナクを破壊させた！？  
ブラフか？？

「カタストルでダイレクトアタックダークネスカタストロフィー！  
！」

「ターンエンド」

「僕のターン、サレンダーするよ？また会おうね、関原 雄吾くん  
？」

そう、言い残して帰って行った

「蒼い痣のシグナーって何だよー！！！！？」

結局分からずじまいだった

視点？友希

「トリシューラで攻撃、破滅槍・トリシューラ！！」

僕の伏せカードは聖なるバリア、だけど隠せず攻撃して来たご褒美  
に使わないであげる……

また会おうね？ 関原 雄吾くん？

**第四話 氷上決闘VSプリューナク！！（後書き）**

漫画番GXの台詞を少し借りました

基本的に作者は吹雪は好きです

そんなこと聞いてませんか

**第五話 人造人間降臨！！VSデイスペア（前書き）**

主人公の決闘です

オリカがたくさんでます

## 第五話 人造人間降臨！！VSデイスベア

ネオドミノシティ 夜

「もういいんじゃないんか……」

俺は龍可に聞いた

「まだよ、次はあそこの店ね」

俺は龍可と龍亜の買い物荷物持ちをしていた  
何でこうなったかと言うと……

朝

「遊星、買い物行こう！！」

龍可と龍亜が遊星を買い物に誘っていた  
遊星ついていけない方がイイぞ、男が買い物について行く時なんて  
ほぼ荷物持ちだ

「すまない龍可、龍亜、今日はジャックとクロウと一緒に仕事を探  
しに行くんだ」

遊星、ナイスだよく断った

なんか、遊星がこっちを見て来た、なんだ？

「雄吾、暇そうだな

「どうだ??二人と買い物に言って来たなら」

「遊星!!俺を裏切ったのか!!」

「そして龍可、龍亜!!俺に期待する眼差しを向けるな!!  
断りにくいだろ!!」

「えっ、ああ……」

「いいぞ今日は暇だし」

「龍可と龍亜は喜んでいて、断れなかったorz」

「回想終了」

「午前中は龍亜のカードショップを回って午後からは龍可が服、食料などとにかく買う物が多かった」

「今日は、ありがとう!!」

「龍可が言って来た」

「そんな嬉しそうな顔をするな、さっきまで面倒く下がってた俺が悪く見えるだろ」

「お前が蒼い痣のシグナーか??」

「不意に後ろから最近聞いたばかりの単語を言われた」

「龍亜、龍可!!逃げろ!!」

「俺は二人を逃がし後ろを向いた」

「仲間を逃がしたか」

「あんたこそ優しいね、黙って逃げさせてやるなんて」

「私の目的はお前だけだからな」

奴はそう言って、決闘版を構えた

「我が名はデイスペアだ」

「「決闘」」

「私のターンドロー、私は錬成陣を発動する」

錬成陣

永続魔法

ーターンに一度自分は手札のレベル4以下のキメラを特殊召喚することが出来る

自分はエンドフェイズに手札を一枚除外することが出来る  
そうしなかった場合このカードを破壊する

「私はその効果で合成獣ーダイヤモンドタートルを特殊召喚、そして合成獣ーシルバーデビルを召喚

シルバーデビルの効果発動、ダイヤモンドタートルとシルバーデビルをゲームから除外して、合成獣ーエリクシルデビルを特殊召喚」

合成獣ーエリクシルデビル

融合・キメラ 2500 1400

ーターンに一度相手のモンスターの召喚、反転召喚を無効にしてゲームから除外することが出来る

この効果を発動する場合自分フィールド上のカードを一枚ゲームから除外する

「カードを二枚伏せてターンエンド、そしてエンドフェイズ、手札を一枚ゲームから除外する」

「俺のターンドロ―！！俺は先鋭のゼピュロスを守備表示で召喚！！」

「その瞬間、エリクシルデビルの効果発動、ゼピュロスをゲームから除外する」

「なに！！」

「そしてコストで伏せカードを除外する、そして除外された賢者の末路の効果発動」

賢者の末路

通常罫

このカードがフィールドを離れる時以下の効果から一つ発動する

デッキから錬成陣と名のついたカードを手札に加える

デッキから人造人間と名のついたカードを手札に加える

その後デッキからキメラを一枚ゲームから除外する

「効果で、第三人造人間を手札に加え、ゴールドファングを除外する」

「カードを四枚伏せてターンエンド」

「私のターンドロ―、終わりか……」

「なに!!!」

「手札から魔法発動、システム凍結  
自分フィールド上のキメラをゲームから除外して発動する、フィールド上セットされた魔法、罨を全て除外する」

「なに!!!」

システム凍結

通常魔法

自分フィールド上のキメラを除外して発動する

フィールド上のセットされた魔法、罨を全てゲームから除外する

このカードの発動に対し、魔法、罨を発動することは出来ない

「手札の第三人造人間の効果、キメラモンスターが五種類以上ゲ

ムから除外されている時、このカードは特殊召喚出来る

降臨せよ第三人造人間」

「第三人造人間で攻撃、賢者の咆哮」

LP1000

「ターンエンド」

「俺のターンドロォー!!!」この瞬間第三人造人間の効果発動、相手がドロォーしたカードを確認して、そのカードの種類によって効果を変える」俺がドロォーしたのは聖なるバリア ミラーフォースだ」

「罨カードの時プロトタイプトークンモードディフェンスを特殊召

喚  
」

ホムンクルス  
第三人造人間

効果・キメラ 3000 3000

このカードはキメラが五種類以上ゲームから除外されている時特殊召喚出来る

相手がドローしたカードを確認するそのカードの種類によって効果を発動する

モンスター

プロトタイプトークンモードアタックを特殊召喚する

魔法、罫

プロトタイプトークンモードディフェンスを特殊召喚する

このカードが破壊される時、代わりにプロトタイプトークンと名のついたカードを破壊する

「カードを一枚伏せてターンエンド」

「私のターンドロー、バトルホムンクルス第三人造人間で攻撃、賢者の咆哮」

「トラップ発動、聖なるバリア ミラーフォース!!!」

「ホムンクルス第三人造人間の効果、自分フィールド上のプロトタイプトークンを身代わりにする」

「そんな……」

「よって、攻撃は続行される

さらばだ、蒼い痣のシグナーよ」

その瞬間、俺の周りにバリアが出来て衝撃を受け止めた

そして煙が上がった

「終わりか……  
つまらない決闘だった」

ディスプレイは去って行った  
雄吾が生きている事には気づかずに

**第五話 人造人間降臨！！VSデイスペア（後書き）**

デイスペア、チートですね

全体的に強すぎるかな……

感想、オリカ募集中ですよろしくお願いします

## ディスプレイのオリカ紹介（前書き）

よく分からないチートオリカについて解説したいと思います

## デイスペアのオリカ紹介

合成獣ーシルバーデーモン

効果・キメラ 1800 1200

このカードと自分フィールド上に存在するキメラモンスターをゲームから除外する事で効果を発動する

自分のフィールド上に合成獣ーエリクシルデーモンを特殊召喚する

合成獣ーゴルドファンク

効果・キメラ 2200 1200 レベル5

このカードと自分フィールド上に存在するキメラモンスターをゲームから除外する事で効果を発動する

自分のフィールド上に合成獣ーエリクシルファンクを特殊召喚する

合成獣ーダイヤモンドトル

効果・キメラ? 400 2500

このカードと自分フィールド上に存在するキメラモンスターをゲームから除外する事で効果を発動する

自分のフィールド上に合成獣ーエリクシルタートルを特殊召喚する

デイスペアのエリクシルモンスターを特殊召喚するために必要なカード達です

ゴルドファンクは攻撃力が低いですが、他はステータス高いですね

金の輝き

相手の攻撃宣言じに発動出来る

その攻撃を無効にしてバトルフェイズを終了させる

そして手札から合成獣ーゴルドファンクを特殊召喚する

攻撃の無力化+ゴールドフアングの特殊召喚です  
ステータスが低めのゴールドフアングのサポートカードです

合成獣ーエリクシルフアング

融合・効果・キメラ 2700 2400

このカードが守備表示モンスターを攻撃する時

攻撃宣言を行わずそのモンスターを破壊する

このカードが効果で破壊された時除外されている合成獣ーゴールドフアングを特殊召喚する

合成獣ーエリクシルデビル

融合・キメラ 2500 1400

一ターンに一度相手のモンスターの召喚、反転召喚を無効にしてゲームから除外することが出来る

この効果を発動する場合自分フィールド上のカードを一枚ゲームから除外する

デイスペアの準エースカード達です

エリクシルフアングの効果は分かりにくいですが、簡単に言うとドリルロイドと、タイラントドラゴンの効果をたした感じです

エリクシルデビルはハルバードキャノンの下位交換か相互交換です  
理由はハルバードキャノンは特殊召喚も無効に出来ると言う利点がある

エリクシルデビルは特殊召喚は無効に出来ないし、コストがあること  
とがあるが、除外して再利用をしにくくします

さらにコストに異次元の生還者や異次元の偵察機を使うとイイですね

錬成陣

永続魔法

一ターンに一度自分は手札のレベル4以下のキメラを特殊召喚する

ことが出来る

自分はエンドフェイズに手札を一枚除外することが出来る  
そうしなかった場合このカードを破壊する

キメラモンスターデッキなら二重召喚の上位交換です

コストもキメラを除外すると第三<sup>ホムンクルス</sup>人造人間の召喚のサポートになります

## 賢者の末路

### 通常罫

このカードがフィールドを離れる時以下の効果から一つ発動する

デッキから錬成陣と名のついたカードを手札に加える

デッキから人造人間と名のついたカードを手札に加える

その後デッキからキメラを一枚ゲームから除外する

キメラデッキなら優秀なサーチカードです

もともと、キメラデッキは次元帝とは違う除外ビートをイメージしたデッキだから使いやすいはず

先ほども書いたように下の効果は人造人間のサーチ+召喚のサポートと一石二鳥な効果です

## システム凍結

### 通常魔法

自分フィールド上のキメラを除外して発動する

フィールド上のセットされた魔法、罫を全てゲームから除外する  
このカードの発動に対し、魔法、罫を発動することは出来ない

知る人ぞ知る、キメラデッキの大嵐

だれも知りませんよね……

恐ろしく強いですが、毎回書きますがコストも人造人間の召喚サポートにもなりません

### ホムンクルス 第三人造人間

効果・キメラ 3000 3000

このカードはキメラが五種類以上ゲームから除外されている時特殊召喚出来る

相手がドロウしたカードを確認するそのカードの種類によって効果を発動する

#### モンスター

プロトタイプトークンモードアタックを特殊召喚する

#### 魔法、罫

プロトタイプトークンモードディフェンスを特殊召喚する

このカードが破壊される時、代わりにプロトタイプトークンと名のついたカードを破壊する

デイスペアのエースカードです

このカードはハレンから作ったカードです

召喚条件は人柱の数

トークンの効果は親玉が人を産んだことから身代わりは傲慢が暴食を食べたことからです

プロトタイプトークンモードアタック

レベル4 1800 0

プロトタイプトークンモードディフェンス

レベル4 0 1800

トークンのステータスはこれです本編で書き忘れました

トークンには特に特別な効果はありませんが、ステータス高いですね

これで、オリカの紹介を終わります

デイスベアのオリカ紹介（後書き）

少年は希望を失った

生きる力を無くした気分だ

そこに老人が現れ

真実を聞く

まだ物語は始まったばかりだ

次の話の予告です

予告が欲しい人は言ってください

要望が無ければ次からは書きません

**第六話 明かされる真実 蒼い痣のシグナー（前書き）**

ついに、蒼い痣のシグナーについて説明されます

この設定を出す機会がなかったので今出す事にしました  
それでは、どうぞ

## 第六話 明かされる真実 蒼い痣のシグナー

夜海

俺は買い物で龍亜の家に置いてから、海に来た、彼女と夕陽を眺めたらドラマチックなんだろうな

と考えながら苦笑した、俺ってまだ余裕なのかな

いきなり転生して、倒れて、へんな事件に巻き込まれて

もう心はズタズタなのかもしれない

この真つ暗で光が差し込まない海は俺そのものを表しているようだ

「くっそおおおお!!」

俺は弱い、強くなりたい、あいつに、ディスプレイに勝ちたい!!」

「そうか、しかしお主には無理じゃ」

「誰だ??」

「ワシの名前はドウローレンじゃ」

「おっさん、かっこいい名前だね、誰から貰ったんだよ」

ドウローレンって言ったら、氷結界の虎王じゃねえか

「I2社かのう」

ワシはお主達蒼い痣のシグナーを待っておったわい」

そう言っておっさんは、光を放ち虎の姿になった

「カードの精霊!！」

「察しがいいな

その通りじゃ、ワシはお主に真実を教えに来た」

そこから、ドウローレンの話が始まった

氷結界の龍はもともと、精霊界を守護するモンスターだった、そして二つの封印がしてあった

一つ目の封印は、時空に普通かかるはずのない力が加わると解け別の世界にいる自分に相応しい人間をこちらに連れて来る

転生と言うのは、あの天使の嘘だったらしい

そして次の話が聞きたい事だった

二つ目の封印は、所有者が自分が氷結界の龍に認めて貰うと解けて、本当の力を発揮してくれるらしい

今のトリシューラ達の姿は仮の姿らしい

「どうやったら、トリシューラに認めてもらえるんだ、教えてくれ!！」

「そう焦るな、まずは精霊界に行ってくれ、そこに案内人がいるその者に詳しい話を聞いてくれ」

「ああ、分かった!!」

「どうやったら、精霊界に行けるんだ」

「このカードを使うんじゃない」

そう言って一枚のカードを渡して来た

「このカードをお主に渡そう、行くかいかないかはお主しだいじゃ」  
俺はその言葉を聞いてこう答えた

「もちろん、答えはg oだ!!  
魔法発動、天界の方舟!!」

カードを発動した瞬間、身体が光り出して、空へと飛んで行った  
ドラゴンなクエストのルーラてき感じだった

「精霊界にレッツg o!!!!!!」

こうして、俺の旅が始まった

第六話 明かされる真実 蒼い痣のシグナー（後書き）

最後な辺は

ドラゴン ールZの音楽でもかけてください

チャーらへっちら なーにが起きてもー気分はへーのへのカッパ  
こんなノリです

**第七話 精霊界突入VSジャンヌ(前書き)**

主人公が精霊界にいきますよ

残念なことにレグルスは出ません

レグルスファンの皆さんすいません  
でわ、どうぞ

## 第七話 精霊界突入VSジャンヌ

荒野

「ここが、精霊界か……  
なんて言うか結構寂しいところだな」

「お待ちしておりした雄吾様」

不意に後ろから声がした

「私の名前はジャンヌと申します、貴方が雄吾様ですね」

「ああ、そうだ  
君がドウローレンが言っていた案内人か??」

「はい、そうです  
しかし、貴方に破滅の間に連れて行く視覚があるかどうかためさせ  
てもらいます」

「決闘か??」

「はい、そうです  
いきますよ」

「決闘」

「私のターンドロー!!私はモンスターをセットしてカードを二枚  
伏せます、ターンエンドです」

「俺のターンドロロー!!!」

デッキ間違えちゃった

てへ、じゃねえよ俺の未来がかかった大切な決闘なのに

「俺は氷結界の武士を召喚してバトルセットモンスターを攻撃」

「その前に罨カード発動、天命の雷鳴リバースモンスター守護天使  
トウルエルです」

天命の雷鳴

天使族モンスターとの戦闘で相手がダメージを受けた時相手フィールド上のカード一枚を破壊する事が出来る

守護天使トウルエル

効果モンスター

星4 / 光属性 / 天使族 / 攻8000 / 守2000

このカードは、自分のモンスターが破壊されるとき代わりに破壊することができる。

リバース：カードを1枚ドロローする。

「効果で一枚ドロロー!!!」

さらに天命の雷鳴の効果で武士を破壊」

LP3800

「カードを一枚伏せてターンエンド」

「私のターンエンドロー！！私はトウルエルをリリースしてルマエルを召喚！！このカードはレベル7ですが守護天使一体のリリースで召喚出来ます」

守護天使ルマエル

効果モンスター

星7 / 光属性 / 天使族 / 攻2500 / 守1900

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、相手の手札を1枚破壊する。

このモンスターは、「守護天使」1体をリリースし、アドバンス召喚することができる。

「ルマエルでダイレクトアタック、天滅波」

「畏カード発動、エネミーコントローラー、ルマエルを守備表示に変更」

「やりますね、ターンエンドです」

「一つ分かった事がある、精霊界では守護天使がシリーズ化しているらしい」

やはり情報アドバンテージは強い

ルマエルの効果が分からない

「俺のターンエンドロー！！」

俺は手札断殺発動、そしてデブリドラゴンを召喚効果でお庭番を特殊召喚そして浮上発動、効果で破術師を特殊召喚、チューニングシンクロ召喚カモン  
トリシューラ」

「効果でルマエルと手札そして墓地のトゥルエルを除外する」

「行くぞトリシューラでダイレクトアタック破滅槍・トリシューラ  
！！」

LP1300

「ダメージコンデンサー発動！！効果で守護天使ガブリエルを特殊  
召喚」

守護天使ガブリエル

効果モンスター

星5 / 光属性 / 天使族 / 攻2000 / 守1900

一ターンに一度相手の墓地のカードを除外して墓地の星4以下の天  
使を特殊召喚する

「ターンエンド」

「私のターンドロー！！」

私はガブリエルの効果で墓地のデブリドラゴンを除外して墓地の守  
護天使メタトロン」

守護天使メタトロン

効果モンスター / チューナー

星3 / 光属性 / 天使族 / 攻0 / 守0

このカードの星をエンドフェイズまで4として扱う事が出来る

「チューニングシンクロ召喚来てください  
守護天使ラファエル」

守護天使ラファエル

シンクロ・効果モンスター

星8 / 光属性 / 天使族 / 攻2900 / 守2100

「守護天使」と名のついたチューナー+チューナー以外の光属性モンスター1体以上

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、フィールド上のカード一枚を破壊する。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「ラファエルでトリシューラに攻撃  
天滅波・ラファエル」

「畏カード発動、極星宝ブリージング・メン  
ラファエルとトリシューラの攻撃力を同じにする」

「タ、ターンエンドです」

「ここで俺が攻撃力1300以上のモンスターを引いたら面白いよ  
な俺のターンドロー！！  
氷結界の術者召喚」

「こ、攻撃力1300！！」

「氷結界の術者でダイレクトアタック」

「ぎゃああああ」

「ガツチャ、楽しい決闘だったぜ」

## 第七話 精霊界突入VSジャンヌ（後書き）

今回はyoshitaka様に投稿して貰ったオリカプラスでお送りしました

また、感想、オリカとう募集中ですよろしくお願いします

第八話 燃える闘志VS炎の刃（前書き）

精霊界編、第二話です

それではどうぞ



か??」

「ダメだよ父ちゃん、そのデッキは父ちゃんの大切なデッキじゃ無いか」

息子??が出て来た

「だがしかし、カードは食べぬ

このままではデッキ動向では無く、ワシらが倒れてしまっわ」

「あのおー、すみません食べ物欲しいんですね、  
なら俺と決闘してくれませんか、そしたら食べ物に分けてあげましょう」

「なぬ!!そんな事でよろしいんですか??」

「はい!!大切なデッキというデッキの内容が見て見たいんです」

本当は何の精霊か分からないから知りたいんだけどな

「では、ワシも戦士の端くれ

本気でお相手します」

「「決闘」」

「ワシのターンドロー!!炎の刃 斬我を召喚」

炎の刃 斬我

効果モンスター

星4 / 炎属性 / 戦士族 / 攻1800 / 守1200

1ターンに一度デッキの上から、1枚除外することで以下の効果を得る。

エンドフェイズまで攻撃力を400アップする。

炎の刃??精霊界にしか無いシリーズか!!

「カードを二枚伏せてターンエンドでござる」

どっかの武士か!!

「俺のターンドロ―!!モンスターをセット、カードを二枚伏せてターンエンド」

「守りを固めるでござるか??そんな物は我が剣の前では無力!!  
ワシのターンドロ―!!炎の刃 怨我を召喚  
斬我の効果発動デッキの一番上を除外して攻撃力を上げるでござる  
そして怨我の効果発動デッキの一番上から二枚を除外して相手の手札を一枚、除外するでござる」

炎の刃 怨我

星3 / 炎属性 / 戦士族 / 攻1600 / 守1000

1ターンに一度デッキの上から、2枚除外することで以下の効果を得る。

相手の手札を一枚除外する

アー、先鋭のゼピュロスがー

最近除外されてばっかだね

それはどうでもイイとして、炎の刃は共通してデッキを除外して効

果を発動させるのか??

「斬我で攻撃するでござる」

「リバーズ効果発動メタモルポット」

「させぬ、罨カード発動炎術 封印の舞!!」

炎の刃が存在する時このカードは発動出来るでござる  
相手が発動したモンスター効果を無効にして除外する」

炎術 封印の舞

カウンター罨

このカードは炎の刃がフィールド上に存在する場合のみ発動する事が出来る

相手が発動したモンスター効果を無効にして除外する

メタモルポットー!!俺の手札増強けん、暗黒界の効果発動要員が  
!!

「さらに怨我でダイレクトアタック!!」

2400

不味いぜ

「ターンエンドでいぢねる」

「俺のターンドロワー!!俺はモンスターをセットして魔法発動、手札抹殺お互い手札を全て捨ててその数分ドロワーする

ドロワー!!」

「ならばワシもドロー!!」

「捨てたゴルドの効果で特殊召喚!!」

バトルゴルドで怨我を攻撃!!」

「畏カード発動、炎術 炎風の舞!!」

相手の攻撃を無効にして、カードを一枚ドローする」

なにそのチート効果

炎術 炎風の舞

通常畏

このカードは炎の刃がフィールド上に存在する場合のみ発動する事が出来る

相手の攻撃を無効にして一枚ドローする

「ターンエンド」

「ワシのターンドロー!!儀式魔法発動、

刃の儀式!!フィールド上の怨我と斬我をリリースして炎の刃 秦刃を儀式召喚」

刃の儀式

儀式魔法

「炎の刃」フレイムソードと名のついた儀式モンスターの降臨に必要。

手札・自分フィールド上から、儀式召喚するモンスターと

同じレベルになるようにモンスターをリリースしなければならない。

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、

このターン自分フィールド上に表側表示で存在する

儀式モンスターの攻撃力は、500ポイントアップする。

炎の刃 フレイムソード 秦刃

儀式・効果モンスター

星7 / 炎属性 / 戦士族 / 攻2700 / 守1800

1ターンに一度デッキの上から、3枚除外することで以下の効果を得る。

フィールド上のカードを1枚破壊する。

1ターンに一度デッキの上から、2枚除外することで以下の効果を得る。

自分の除外してある炎の刃を8枚までデッキに戻す。

エンドフェイズまで戻した数×100攻撃力がアップする。

「ぎ、儀式モンスター!!!」

「ワシは秦刃の効果を発動するでござるデッキの上から三枚除外してセットモンスターを破壊、紫電の舞!!!」

て、偵察者が!!!

「秦刃で攻撃!!!炎海の舞!!!」

「速攻魔法発動、月の書!!!」

効果で秦刃を裏側守備表示に変更」

あ、そっぴゃあいつの守備力わかんないや

てへ

「カードを一枚伏せてターンエンドでござる」

「俺のターンンドロー！………ターンエンド」

「ワシのターンンドロー！！ワシは秦刃を反転召喚！！効果発動！！デッキの上から二枚除外して除外されている炎の刃を4枚をデッキに戻して攻撃力を400ポイントアップさせる  
行くぞバトル、秦刃でゴールドを攻撃！！炎海の舞」

600

「やつべえ」

「カードを一枚伏せてターンエンドでござる」

「俺のターンンドロー！！俺はモンスターをセットしてカードを一枚伏せターンエンド！！」

「ワシのターンンドロー！！バトル秦刃でセットモンスターを攻撃！！炎海の舞！！」

「聖なるバリア ミラーフォース！！」

「な、なんじゃと！！ターンエンドでござる」

「俺のターンンドロー！！」

この方法は本当は使いたくなかった

だが使わせてもらう

「反転召喚、墓守の偵察者！！効果で偵察者を特殊召喚」

「あいもかわらず、守備陣をひくか！！」

「いや、違う！！二体のモンスターをオーバーレイ！！二体のモンスターでオーバーレイユニットを構築！！エクシーズ召喚！！インヴェルズローチ！！」

「え、エクシーズ召喚じゃと！！」

「行くぞインヴェルズローチで攻撃！！レイピア乱れずき」

2100

「ターンエンド！！」

「わ、ワシのターンドロー！！除外されているカードが4枚以上で自分フィールド上にモンスターが存在しない時このカードは手札から特殊召喚できる！！」

こい炎の刃 槍我！！」

炎の刃 槍我

効果モンスター

星5 / 炎属性 / 戦士族 / 攻2100 / 守1200

除外されているカードが4枚以上で自分フィールド上にモンスターが存在しない時このカードは手札から特殊召喚できる

1ターンに一度デッキの上から、1枚除外することで以下の効果をエンドフェイズ時まで得る。

このカードが攻撃する場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動する事ができない。

炎の刃つてより炎の槍じゃない??

「インヴェルズローチの効果発動、オーバーレイユニットを一つ取り除きレベル5以上のモンスターの特殊召喚を無効にして破壊する、封印魔法・ゼロ!！」

ローチのレイピアが光ったと思ったら、槍我の下に魔法陣が現れ槍我が消えて行った

「た、ターンエンドでござる」

「俺のターンドロー!!俺は疾風のゲイルを召喚、バトル!!  
二体で攻撃!!」

「ぐああああ」

「ガツチャ、楽しい決闘だったぜ!!」

「お主のエクシーズモンスターと言うのは凄いのう」

「はい、これが約束の食料だ」

「さすがに、タダでもらうのは気が引けるわい  
このカードを持っていけ」

爺さんは一枚のカードを渡して来た

「サンキュー！！では、旅先に急ぐので  
アディオス！！」

「あのお爺さん、いい人でしたね」

「ああ！！さてさてさと村に向かうぞ」

こうして俺のジャングルでの決闘は幕を閉じた

## 第八話 燃える闘志VS炎の刃（後書き）

今回もyoshitaka様のオリカプラス ですかつてに付け加えさせて貰った事をお詫びします  
すみません

また感想、オリカとう募集中ですよろしくお願いします

## 第九話 心霊体験！！VSアンデット（前書き）

すみません

お盆と言いつ事でおばあちゃんの家に戻っていたので更新遅れました  
そしてPCが無くてカードが調べられなかったので決闘者の内容が  
薄いです

## 第九話 心霊体験！！VSアンデット

村

「ここか？」

結構和やかな場所だな」

精霊界の村なんて初めて見た気がする  
いや、ユベル編で出て来たか

「貴方が雄吾様ですね」

変なフードを被ったおっさんが近づいて来た

「お待ちしておりました、私は村長の炎羽と言います」

そう自己紹介をしてフードをとった  
俺は驚いた

「ジャングルで会ったおっさんじゃねえか！！  
ジャンヌ、お前は知っていたのか??」

そう、ジャングルで会った炎の剣を使っていたおっさんだった

「はい、知っていましたよ  
彼は貴方がどれほどの優しさを持っているか試したんです」

「だからジャングルをわざわざ通ったのか……………」

「Yes!..!」

「ここでは、三つの試練を受けてもらいます」

三つも有るのか……..  
急いでいるんだが

「まず一つ目は、夜精霊界の墓地に行ってもらいます」

「ただの肝試しじゃねえよな?..?」

「勿論、意味は有ります」

「分かった

少し休ませてもらう」

墓地 夜

「よーるはーくらいーな怖いーんだなー」

俺はよくわからない歌を歌いながら歩いた  
別に怖いわけじゃ無いんだからね!!

ただ、歌いたいただけなんだから!!  
男のツンデレなんて気味が悪いな

結構歩いたな

何か青白く光ってる女の子がいるんだが

.....

ナンテコッタ

マジデユウレイデスカ??

「こ、今晚わ、お、お嬢さん、こ、こんなとこでなにやってんのかな（ガクガク、ブルブル）」

「私は、モンスターの亡霊よ

この地に縛り付けられて動くことも出来ない可哀そうな亡霊よ  
私は決闘者を恨んでいるのよ

貴方、決闘者ね??

私と踊りましょう?? 血のダンスを!!」

少女はそう言っつて、狂気の笑いを浮かべる

ここでボケる事ができる奴は神だ!!

俺は黙つて決闘版を構える

別に怖くて黙つたんじゃ無いからね!!

感じがいすんなよ!!

「さあ、狩らせて貰うわよ!!

貴方の魂を!!」

少女はどこかのハンターっぽい台詞を言つて決闘版を構える

「「決闘」」

「私のターンドロー!!

私はピラミッドタートルを召喚、ターンエンドよ」

俺相手にリバーズカード無しか

良い度胸だ

「俺のターンンドロー!!!」

あいつのモンスターはアンデット族のリクルーターか……..  
アンデットデッキか??

「俺はネクロバレーを発動!!そして墓守の司令官を召喚、バトル  
!!司令官でピラミッドタートルを攻撃」

「私はピラミッドタートルの効果で真紅の眼の不死竜を特殊召喚」

「……………カードを二枚伏せてターンエンド」

弟もそう言えばアンデットデッキだったな  
あのカードを引いて無いとイイが

「私のターンンドロー!!!アンデットワールド発動!!!」

「させねえよ、伏せカード発動!!サイクロン!!!」

「でもネクロバレーは破壊されるわ」

ちくせう

「そしてイモータルルーラー召喚

効果で自身をリリースして墓地のアンデットワールドを手札にくわ  
える

そしてそのまま発動!!!」

い、イモータルルーラー！！  
そんなカード入れてる奴が居るのか！！

「不死竜で司令官を攻撃！！」

司令官、召喚するんじゃ無かった

「効果で司令官を特殊召喚！！そのままダイレクトアタック！！」

1600

「痛い痛い」と

「ターンエンドよ」

「俺のターンドロー！！手札抹殺発動！！二枚捨てて二枚ドロー！！  
ブラックホール発動！！

さらに伏せカード発動！！降霊の儀式！！効果で司令官を特殊召喚  
！！

そしてデッキトップを墓地に送ってグロリアアップバルブを特殊召喚  
！！

そして司令官を手札に戻して先鋭のゼピュロスを特殊召喚」

1200

久々のゼピュロス登場！！

ゼピュロスが俺！！参上  
って言ってる気がする……………

「そして司令官を召喚！！手札をデッキトップに戻してゾンビキヤ

リアを特殊召喚！！ダブルシンクロ！！AOJカタストル、大地の騎士ガイアナイト！！」

俺も大概チートだな……………

「に、二体もシンクロモンスターを……………」

「二体でダイレクトアタック」

「きゃあああ」

「静かに……………眠れ」

俺は落ちていたデッキを拾って帰って行った

**第九話 心霊体験！！VSアンデット（後書き）**

プレミがあったらすみません

感想、オリカ等をお待ちしております

## 特別編予告 天空の決闘者

天空から舞い降りる城

「何だあれは！！」

「我々は歴史の記録者、人間を抹殺するために来た」

「何だと！！」

何故人間を滅ぼそうとするんだ！！」

「人間は愚かな生き物だ

闇と光の力に操られていつまでも戦いを繰り返す

その戦いによって生まれる波動せいで、世界が滅びようとしている  
この世界を一度作り直し決闘の無い世界を創る」

「決闘の無い世界だと！！」

「その通りだ、神をめぐる争い、千年アイテムをめぐる争い、幻魔の復活をかけた争い、破滅の光との争い、精霊界での決闘、超融合の完成、闇も光も超越した存在ダークネスとの戦い

さらには、お前たちシグナーとダークシグナーとの争い、決闘のせいで闇と光の波動のリズムが崩れ、世界が滅びようとしているんだ」

「未来はいつだって変える事はできる！！」

「真つ直ぐな目だな、いいだろう」

我々は城で待っている、この世界を我々が滅ぼすまでの時間は5時間  
我々を止めてみるが良い、赤き竜のシグナー、蒼き竜のシグナーよ」

タイムリミットは5時間

「ここは俺に任せろ！！先に行け遊星！！」

世界の運命をかけた戦いが今始まる

劇場版遊戯王 天空の決闘者

近日公開

「おい、作者！！」

何だね、雄吾くん??

「何だ??この予告は??本編もあんまり進んでねえのによ」

痛い事を言うね、大丈夫だこれは本編が進んでからやる事になって  
いる

少なくとも蒼き竜のシグナーが全員集合してからだ

「そう言う事が……」

残り一人は一回の台詞のみだもんな」

そう言う事だ

「こんな事に一話使ってすいません」

すいませんでした

**特別編予告 天空の決闘者（後書き）**

これはやるつもりです

この進み具合だと半年後くらいになりますが……

こんな時に予告やるな

って話ですね

すいません

**第十話 勇気の部屋V S ヒーロー (前書き)**

第二の試練、スタートです

二連続投稿??になるのか??

かなり書き直しましたすみません

## 第十話 勇気の部屋V S ヒーロー

村

「第一の試練はクリアじゃ」

「あ、ああ」

「今の試練はお主に闇の決闘において相手に止めを指す事ができるかどうかためさして貰った、が、辛い事をさせてすまんのだ」

「いい、次の試練は何だ??」

「次の試練は三つから一つを選んで受けてもらう」

「俺は強くなりたい、三つとも受けさせてもらう」

「いいじゃろう、まずは勇気の部屋に入ってもらおう」

「分かった」

勇気の部屋

なんて言うか、最初に居た空間見たいだな  
あそこに居るのは……

ハネクリボー??

「クリクリー、クリクリ、クリクリー」

「ははっ、全く分からは」

「クリクリっ！！」

「そのハネクリボーと決闘をしてみよう」

「それが試練か……………なら行くぞ」

「「決闘（クリクリ！！）」」

「クリクリ、クリ、クリクリクリー（バブルマンを守備表示で召喚、効果で二枚ドロ、カードを二枚伏せてターンエンド）」

強欲ヒーローが出やがった

「俺のターンドロー！！俺はネクロバレーを発動！！モンスターをセットしてカードを一枚伏せてターンエンド」

「クリクリ、クリクリクリー、クリクリ、クリリー（融合発動！！手札のフェザーマンとバーストレディを融合、融合召喚フレイムウイングマン）」

分かった、ハネクリボーのデッキはチートドロヒーローデッキだな  
注十代のコピーデッキ

「クリリー、クリクリクリー（フレイムウイングマンで攻撃、フレイムシュート）」

「セットモンスターは偵察者、効果で偵察者を特殊召喚」

3600

「クリリー（ターンエンド）」

「俺のターンドロー！！深海のティーバ召喚、効果でティーバを特殊召喚！！ティーバとティーバをオーバーレイ！！エクシーズ召喚、ダイガスタ・フェネクス！！そして偵察者とティーバをオーバーレイ！！エクシーズ召喚！！ジェムナイトパール！！  
ダイガスタ・フェネクスの効果でエクシーズ素材を一つ取り除きダイガスタ・フェネクスを二回攻撃にする  
行け！！ジェムナイトパールでフレイムウイングマンを攻撃！！ジェムパールナツクル！！」

「クリリー（ヒーローバリア発動）」

「ダイガスタ・フェネクスでフレイムウイングマンを攻撃、そしてダメージステップに収縮発動！！」

3150

「そしてバブルマンにアタック！！  
カードを二枚伏せてターンエンド」

「クリリー、クリクリ、クリリー（融合発動！！、クレイマンとスパークマンを融合、融合召喚サンダージャイアント！！さらにミラクルフュージョン発動！！融合召喚！！地水炎風エリクシーラー  
二体で攻撃！！）」

「リバースカードオープン、ミラーフォース」

「クリー!! (そんな!!)」

驚いてるな

「クリー (ターンエンド)」

「俺のターンドロ!! 二体でダイレクトアタック!!」

「クリリー!!」

0

「俺の勝ちだ!!」

第十話 勇気の部屋VSヒーロー（後書き）

宿題が多くて書く暇がありません

ナノで内容が薄いですがすみません

## 第十一話 力の部屋VS伝説(前書き)

宿題と学校のせいで投稿するのが遅れました本当にすいません

前の話をかなり直しました、すいませんでした

## 第十一話 力の部屋VS伝説

「見事じゃのう、次は力の部屋に入ってもらおう」

「ああ、分かった」

力の部屋

「ふうん、貴様が関原 雄吾か」

白い龍型のヘルメットをかぶった人間がいた  
まっ、まさか

「か、カイバーマン!!」

「貴様の相手は俺のようだ  
行くぞ」

「「決闘」」

「俺のターンドロ―!!俺はモンスターをセット、カードを二枚伏  
せてターンエンド」

「ふうん、俺のターンドロ―!!  
俺の手札にはカイバ―「トランプ発動マインドクラッシュ!!カイ  
バーマンを選択」き、貴様!!」

普通に召喚しなかった事を恨むがいい  
フーハッハッハ

「俺は未来融合　フューチャーフュージョンを発動！！FGDを選択して伝説の白石を三枚とカイザーグライダーを二枚選択、そして伝説の白石の効果でブルーアイズホワイトドラゴンを三枚手札に加える」

マイクラの使い所ミスったな

「行くぞ融合発動ブルーアイズホワイトドラゴンを三体融合、来いブルーアイズアルティメットドラゴン！！」

「奈落の落とし穴」

「き、貴様！！一度ならず二度までも絶対に許さんぞ！！」

手札から龍の鏡！！効果でブルーアイズアルティメットドラゴンを融合召喚」

またか……………

「行け！！ブルーアイズアルティメットドラゴンで攻撃！！アルティメットバースト！！」

「くっ、偵察者の効果偵察者を召喚！！」

「カードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ―！！俺は精鋭のゼピュロスを守備表示で召喚、カードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー!!! いけアルティメットバースト!!!」

「リバースカードオープン、ミラーフォース」

バリアに火炎弾が当たり爆発する

「よし!!!」

煙りが晴れた

そこに居たのは

ブルーアイスホワイトドラゴン×三

ブルーアイズアルティメットドラゴン

2000

「何が!!! つまさか!!!」

「その通りだ、俺は異次元からの帰還を発動した」

「ち、チートドローム」

「行け!!! 三連バーストストリーム、アルティメットバースト!!!」

粉碎 玉砕 大喝采 強靱 無敵 最強

フーハッハッハッハッハ!!!」

4000

俺のフィールドには一枚のカードがあった

「何故貴様のライフが残っているんだ!!!」

「俺は手札から、バトルフェーダーの効果を発動した」

「た、ターンエンドだ!!」

「このエンドフェイズ時に三体のブルーアイズとアルティメットドラゴンはゲームから除外される  
デスよね??」

「くっ、その通りだ」

「俺のターンドロー!!俺はバトルフェーダーを手札に戻し精鋭のゼピュロスを特殊召喚!!バトルフェーダーはゲームから除外される  
そして疾風のゲイルを特殊召喚!!  
チューニング、シンクロ召喚!!来いアーマードウイング!!」

「攻撃力2500だと!!」

「行け!!ブラックハリケーン!!」

「グワあああ」

「ガツチャ、楽しい決闘だったぜ!!」

二つ目の部屋もクリアした

## 第十一話 カの部屋VS伝説（後書き）

最後シンクロ召喚する必要無いですね

さて次は最後の部屋です、もうわかっているひとが多いと思います

次回 王の部屋VSゴット!!

お楽しみに

第十二話 王の部屋VSゴットー！ 前編（前書き）

前後編になりました

なんとあの人が登場します

それでは、どうぞ

現実と言う短編小説を出しました、これはこの小説の始まる前の雄  
吾の話です

読んでいただけるとありがたいです

第十二話 王の部屋VSゴットー!! 前編

「ここが、最後の部屋じゃ  
心してかかるが良い」

「分かった、そうさせてもらっ」

王の部屋

「お前が関原 雄吾だな」

髪型が特徴的な人がいた

「まつ、まさか!! 武藤 遊戯!!」

「俺を知っているのか??」

だが、それは相棒であって俺はアテムだ」

「あなたが試練の相手なのですか??」

「ああ、そうだそして特別だが

俺に勝てなくても現実の内容次第では合格になる」

「分かりました、行きますよ」

「「決闘!!」」

あのアテムだ油断したら一瞬で殺られる

「俺のターンドロー！！俺はクイーンズナイトを召喚！！カードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺はモンスターをセットカードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー！！手札から速攻召喚発動！！効果でキングスナイトを召喚！！効果発動デッキからジャックスナイトを特殊召喚！！三体のモンスターを生贄に捧げ来い紅き雷竜 オシリス」

紅き雷竜 オシリス

レベル12 神属性 幻獣神族

自分フィールド上のモンスターを三体生贄に捧げた場合のみ召喚出来る

このカードのパワーは手札×800になる

お互いがパワー2000以下のモンスターを召喚した場合そのモンスターのパワーを0にする

このカードが特殊召喚場合、そのターンのエンドフェイズ時にこのカードを破壊し手札×500ポイントのダメージを受ける

パワー800

「そして俺は手札から天よりの宝札を発動！！お互いは手札が6枚になるようにドロウする」

パワー4200

「紅き雷竜 オシリスでセットモンスターを攻撃！！サンダーフォース！！」

「墓守の偵察者の効果発動、デッキから末裔を特殊召喚!!」

「ターンエンド」

「俺のターンドロ―!!俺は司令官を召喚!!末裔の効果で司令官をリリースして紅き雷竜 オシリスを破壊!!」  
末裔でダイレクトアタック!!」

2500

「カードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ―!!俺は死者蘇生を発動して紅き雷竜 オシリスを特殊召喚!!攻撃しろオシリス、サンダーフォース!!」

「トラップ発動!!ガードブロック!!ダメージを無効にして一枚ドロ―する」

「ターンエンド、そしてこのエンドフェイズ時にオシリスは自壊して手札×500ポイントのダメージを受けるがこのカードを発動するレインボーライフ!!効果で手札を一枚捨ててこのターン受けるダメージを回復にする」

5000

「ターンエンド」

「俺のターンドロ―!!俺は手札抹殺発動!!ドロ―!!」

こゝこのカードは

お前も力を貸してくれるのか？？

「俺は氷結界の眠姫　ゴーストスリーパーを特殊召喚！！」

氷結界の眠姫　ゴーストスリーパー

レベル5　水属性　アンデット族

このカードは自分フィールド上にモンスターが居ない時特殊召喚出来る

その後、このカードと同じレベルになるようにモンスターを墓地から特殊召喚する

「ゴーストスリーパーの効果で手札抹殺で捨てたグローアップバルブと偵察者を特殊召喚！！三体のモンスターをチューニング！！シンクロ召喚！！こいAOJディサイシブアームズ！！」

俺のフィールド上に決戦兵器が現れる

「さあ、反撃開始だ」

第十二話 王の部屋VSゴットー！ 前編（後書き）

天よりの宝札は原作効果です

海馬いわく最強のドロージャー

神は強すぎるので勝手ですがリメイクしました  
すいません

感想、オリカを募集中ですよろしくお願いします

第十三話 王の部屋VSロケット 後編(前書き)

アテムとの決闘の後編です  
ぜひ

## 第十三話 王の部屋VSゴット 後編

「さあ、反撃開始だ」

「シンクロ召喚か…いい仲間を持っているな」

やった、アテムさんに褒められた!!

「行け!! デイサイシブアームズで攻撃!! アームズショット!!」

デイサイシブアームズが装備している全ての武器で攻撃を仕掛けた

「トラップ発動!! オフェンシブ・ガード!! 相手のダイレクトアタックのダメージを半分にしてカードを一枚ドロウする!!」

3350

「ターンエンド!!」

「俺のターンドロウ!! マジック発動!! ホルアクティ降臨!! 自分のデッキ手札墓地から一枚つつオシリス・オベリスク・ラーとなつたモンスターをゲームから除外してホルアクティを特殊召喚する」

ホルアクティ

神属性 幻獣神族 レベルMAX

8000 8000

このカードは通常召喚出来ない

このカードはホルアクティ降臨の効果でのみ特殊召喚出来る

このカードは効果では破壊されない  
このカードがフィールドを離れた時ゲームから除外されているラー  
と名のつくカードを特殊召喚する

「ホルアクティで攻撃!!」

「トラップ発動!!極星宝 ブリージング・メン!!お互いのモン  
スターの攻撃力を同じにする」

「だがホルアクティが破壊された時ラーと名のつくカードを特殊召  
喚出来る!!来い!!金色の神竜 ラー!!」

金色の神竜 ラー

神属性 幻獣神族 レベル12

???

一ターンに一度任意のライフを払う事で発動する

払ったライフ分のダメージを相手に与えこのカードの攻撃力はこの  
効果で払ったライフ分アップする

このカードの効果は無効かされない

このカードがフィールドを離れた時フィールド上のカードとお互い  
の手札を全て破壊する

「俺はラーの効果発動ライフを3349払い相手に3349ポイン  
トのダメージを与える」

651

1

「そしてラーの攻撃力は3349になる

ターンエンド」

「俺のターンンドロー！！俺はネクロバレーを発動！！そしてネクロバレーを手札に戻して精鋭のゼピュロスを特殊召喚！！」

251

「通常召喚、偵察者

デッキトップを墓地に送りグローアップバルブを特殊召喚！！

三体のモンスターをチューニング

シンクロ召喚 氷結界の龍 トリシューラ！！」

白銀の龍と金色の龍がフィールドに並ぶ

「トリシューラの効果発動！！ラーと手札、ホルアクティを除外する」

「ラーの効果発動！！フィールド上のカードとお互いの手札を全て破壊する！！

ゴットフェニックス！！」

俺のカードが燃やし尽くされる

「た、ターンエンド」

「俺のターンンドロー！！岩石の拳兵を召喚して攻撃」

やっぱり、アテムさんは強かったな

0

第十三話 王の部屋VSゴット 後編(後書き)

いろいろリメイクカードと原作オリカを出しましたすいません  
感想、オリカを募集中ですよろしくお願いします

第十四話 新たな力を手に入れるためにVSTリシューラ（前書き）

今回は最後の精霊世界編というのに

恐ろしい事をしました

すいません

それではどうぞ

第十四話 新たな力を手に入れるためにVSTリシューラ

「いい決闘だったな」

アテムさんが言って来た

「はい、とてもいい決闘をする事ができました」

「お前は負けた、が決闘の内容は合格だ」

「ありがとうございます」

「俺はしばらく眠りにつく  
早くこの部屋から出るんだ」

「また機会が会ったら決闘しましょう」

「ああ、約束だ」

俺は部屋を後にした

村

「惜しかったのう」

村長が話しかけて来た

「これで二つ目の試練もクリアですね?」

「ああ、最後の試練を受けてもらっ  
ついてくるのじゃ」

破滅の間

「ここが、破滅の間じゃ」

でかいトリシューラの像が立っている場所に連れてこられた

「ここが……破滅の間……」

俺が探し求めていた力をようやく手にする事が出来る

「お前ガ我ニ選ばれたモノだな」

トリシューラの像が光り、人型になった  
と言うよりも人になった

「我ひとりしゅーらダおマエに最ゴの試練をアタえる」

「決闘ですか??」

「ちがウ」

「なんですか」

決闘以外だと!!  
なにがあんだ??

「我ニチカラをシメセ」

人からトリシューラの姿に戻る

そして攻撃して来た

っへ???

「まさかっ！！リアルファイター……………！！！」

「そうダ

いまハ精霊のチカラをつカエる

るーるハ決闘と同じ、一分にイツカイどろーシテいい

そシテ通常召喚は三分にイツカイシテいい

しんくる召喚もアリだ」

なるほどルールは分かった

「いくぞ、決闘開始だ」

初手は5枚ドロー！！

「俺はモンスターをセットしてカードを二枚伏せる」

トリシューラがブレスを吐いてくる

モンスターが凍りついた

「偵察者の効果で未裔を特殊召喚!!」

そして時間が来るまで

「逃走DA」

そこからは効果で地味に攻めた

これまでの攻撃で分かった事は以下だ

- ・効果破壊は相手に効果ダメージを与える  
ダメージを与えるたびに少しづつトリシューラの動きが鈍っている

- ・戦闘でディサイプアームズを出したが、上に書いたことをやる  
前でトリシューラにダメージを与えていなかったため瞬殺された  
この世界に攻撃力の概念は無いらしい

- ・トリシューラはたまに効果で墓地を除外して来る

- ・俺はトリシューラを召喚出来ない

これだけだ

だがこれで勝利への方程式は完成した

byエアーマン

「死者蘇生でディサイシブアームズを復活、そして墓地の闇属性が三枚になった事でダークアームドドラゴンを特殊召喚!!」

効果を乱用して墓地を除外した事を悔やむがいい

「ダークアームドドラゴンの効果発動!!ダークジェノサイドカタール三連打!!」

全て左足を狙った、そこにさっきからダメージを蓄積させている

「行くぞ!!ディサイシブアームズで攻撃!!アームズショット!!  
ダークアームドドラゴンで攻撃!!  
ダークアームドバスター!!」

トリシューラが倒れた

「俺の勝ちだ!!」

「みごとだ、じカンをカケてじゃくシヨをみぬきこっげキをしてしよウリをツカんだすばラシイぞ  
コノカードを受けトレ」

真白なカードを受け取った

「おマエがほんトウにのぞンダとキそのカードがチカラヲかしてくれル」

「ありがとうトリシューラー!!」

よし帰るぞ

「マジック発動!!天界の方舟!!」

俺は現実世界へと帰って行った

第十四話 新たな力を手に入れるためにVSTリシューラ（後書き）

こうして雄吾は進化しました

リアルファイトについては何も言わないでください  
お願いします

感想、オリカを募集中ですよろしくお願いします

**第十五話 天使と決闘？？VSガガガ！！（前書き）**

今回はKavalerist様のオリカを使用させてもらいましたが私のプレイングは恐ろしいのでこんな回し方でいいのか不安ですがよろしくお願いします

## 第十五話 天使と決闘??? VS ガガガ!!

????

「どこどこだー!!」

あえて言おうここはどこだ??  
簡単に状況の説明をしよう

トリシューラに勝利!!

天界の方舟発動!!

ドラゴンなボールの世界の天界っぽい場所へ移動

こんな感じだ

「雄吾さん久しぶりですね」

「おおっ、お前はいつぞやの天使じゃねえか」

「今回は無理矢理な世界移動をしたお詫びにここに呼ばさせてもらいました」

「お詫び??」

「はい!! 僕と決闘しませんか??」

「おう、いいぜー!」

「決闘」

「僕のターンエンドロー!!」

天使の先攻だ

「ガガガマジシャンを召喚!!」

天使のデッキはエクシーズをメインにしたデッキか??

「カードを二枚伏せてターンエンドです」

「俺のターンエンドロー!!俺はモンスターをセットしてカードを二枚伏せてターンエンド」

「エンドフェイズにトゥールスリーンフォースを発動してガガガウオリアーを特殊召喚!!」

ま・・・まさかガガガデッキだと!!

ガガガウオリアー

効果モンスター

星2 / 戦士族 / 攻0 / 守0

このカードを通常召喚したターン、自分はシンクロ召喚・エクシーズ召喚を行うことができない。

1ターンに1度、フィールド上に存在する「ガガガ」と名のつくモンスターを一体選択して発動する。

このカードのレベルを選択したモンスターのレベルと同じにする

「僕のターンドロー！！僕はガガガソルジャーを特殊召喚！！」

ガガガソルジャー

効果モンスター

星1 / 戦士族 / 攻0 / 守0

このカードは通常召喚できない。

「ガガガソルジャー」はフィールド上に表側表示で1体しか存在できない。

フィールド上に「ガガガ」と名のついたモンスターがいるときのみ、手札から特殊召喚できる。

1ターンに1度、フィールド上に存在する「ガガガ」と名のつくモンスターを1体選択して発動する。

このカードのレベルを選択したモンスターのレベルと同じにする。

「ガガガマジシャンの効果発動！！レベルを八に変更

そしてソルジャーとウォリアーの効果でマジシャンのレベルをコピー！！！！

三体のモンスターをオーバーレイ！！三体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築中エクシーズ召喚！！

ガガガドラゴン！！」

ガガガドラゴン

エクシーズ・効果モンスター

ランク8 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守3000

レベル8モンスター×3

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1枚取り除く事で、墓地の「ガガガ」と名のついたモンスターを1体特殊召喚する。

このカードの攻撃力は、フィールド上に存在する「ガガガ」と名のつくモンスターのレベルの合計×100ポイントアップする。

このカードが戦闘で相手モンスターを破壊したとき、フィールド上に存在する「ガガガ」と名のつくモンスターのレベルの合計×10ポイントのダメージを相手に与える。

「ガガガドラゴンの効果でオーバーレイユニットを取り除きガガガマジシャンを特殊召喚！！」

展開力がすげえな

「そしてガガガフュージョン発動！！デッキから五枚のカードを墓地に送り発動する

ガガガモンスターを融合させる、ガガガマジシャンとガガガソルジャーを融合、融合召喚！！ガガガパラディン！！」

ガガガパラディン

融合・効果モンスター

星6 / 魔法使い族 / 攻2500 / 守2500

ガガガマジシャン+ガガガソルジャー

一ターンに一度、エンドフェイズ時に墓地から「ガガガ」と名のついたカードを一枚選択し、手札に加える。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外の「ガガガ」と名のついたモンスターを攻撃対象に選択できない。

ガガガフュージョン

通常魔法

デッキの上から五枚を墓地へ送って発動する。

デッキから融合素材となるカードを墓地へ送る事で、エクストラデッキから「ガガガ」と名のつく融合モンスター一体を融合召喚する。

「デッキから五枚つてどこの光の戦士達だよ!!」

「行きますガガドラゴンで攻撃、ガガブレス!!」

「偵察者の効果で偵察者を特殊召喚!!」

「ガガドラゴンの効果で200ポイントのダメージ!!ガガガラディンで追撃!!ガガガスラッシュ!!」

「ぐわああ」

3800

凄い衝撃だな

「ターンエンドです」

「俺のターンドロ!!俺はモンスターをセットしてターンエンド」

「僕のターンドロ!!」

ガガドラゴンの効果発動!!効果でガガマジシャンを特殊召喚!!

ガガドラゴンで攻撃、ガガブレス!!」

「メタモルポットの効果発動!!」

俺がそう言った瞬間俺のフィールドと天使のフィールドに穴があく

「何だ!!」

「暗黒界の龍神グラファと暗黒界の武神ゴルドの効果発動！！ゴルドを特殊召喚してガガドラゴンを破壊する」

俺のフィールドの穴からは金色の身体を持つ悪魔が這い出て来て、天使のフィールドの穴からは龍の手が出てガガドラゴンを穴の中に引きずりこんだ

このイメージだとガガドラゴンが除外されたっばく聞こえるのは俺だけか??

「ガガパラディンで攻撃！！」

「聖なるバリアミラーフォース！！」

「た、ターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺は疾風のゲイルを召喚そしてゴルドん手札に戻しグラファを特殊召喚！！  
二体でダイレクトアタック」

「ぐわあああ！！！」

0

「ガツチャ、楽しい決闘だったぜ！！！」

「僕もです

ありがとうございました」

第十五話 天使と決闘??VSガガガ!!(後書き)

これで本当の精霊界編終了だと思います

次の回はyoshitaka様の小説とのコラボをさせて頂く予定です

コラボは初めてですがよろしくお願いします

第十六話 異世界決闘VS幻魔（前書き）

今回は予告どおりコラボです  
よろしくお願ひします

## 第十六話 異世界決闘VS幻魔

天界

これから天使に魔法で送ってもらおうところだ

「では、送りますよ」

「ああ、分かった」

「転移魔法、発動!!」

俺の下に魔方陣が現れた

「では、さようなら」

「アディオス!!!」

????

「ここ、どこぞ??」

俺が、元々住んでいたような街並みが広がっていた

空から紙が降って来た

すいません、転移する場所ミスりました

もう一度、転移魔法を使うには決闘エナジーが一回分足りませんのでその辺の人と決闘してください

「あの糞天使が!!」

俺はそう叫んで紙を破り捨てた  
はたからみたら痛い人だな

どうやってその辺の人と決闘しろってんだ、なんだ某蟹みたいに「  
おい、決闘しろよ」って言えば良いのか??

街を適当に歩いていると白衣を着た人がいた  
俺の知っている中で野外で白衣を着ている人間は某闇医者と厨二病  
しか知らない  
見た限りは厨二病だな

「あなたは、鳳凰院凶真さんですよね」

「そうだが、……何故、この狂気のマッドサイエンティスト、鳳凰  
院凶真の真名を知っているのだ?さては貴様、機関のスパイだな!」  
頭いかれてんじゃないかねえのか??

「あなたにまともな話をしてもしょうがないことが分かりました。  
だから、こちらもまともじゃないことを言いますね。

……おい、決闘しろよ!」

「良いだろう、その決闘、受けて立つ!」

「「決闘!!」」

「先行は貴様に譲ってやる!」

「じゃ、遠慮なく。俺のターンドロー！！俺はモンスターをセットしてカードを二枚伏せる」

「守り重視だな」

「俺のターンドロー！俺は俺はモンスターをセットしてカードを一枚伏せる」

「貴方もそうじゃ無いですか」

「貴様と同じにするな！

ターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺は死霊騎士デスカリバー・ナイトを召喚バトル、デスカリバーでセットモンスターを攻撃！！」

「セットモンスターはクリッターだ。  
効果発動」

「デスカリバーナイトの  
効果発動リリースして無効」

「だがこれでアタッカーがいなくなったな」

「くそつ、ターンエンド」

「俺のターンドロー！俺はジャイアント・オークを召喚。  
バトル！セットモンスターを攻撃！

ジャイアント・アックス！」

「偵察者の効果発動！！偵察者を特殊召喚！！」

「だがそのモンスターは破壊される

メイン2、ブラック・ホール！」

「何っ！！」

「ターンエンドだ」

「俺のターンドロー！！」

「……………ターンエンド」

「俺のターンドロー！俺はデーモンソルジャーを召喚する！そして攻撃だ！

デーモンサイス！」

「ライフで受ける！！」

2100

「メイン2、カードを一枚伏せて、ターンエンドだ」

「俺のターンドロー！！俺は深海のディーヴァを召喚、効果でディーヴァを特殊召喚！！」

そして、二体のモンスターをオーバーレイ！！

2体のモンスターで、オーバーレイネットワークを構築、来い！エクスシーズ召喚！！ガチガチガンテツ！！」

「モンスターエクシーズか」

「ターンエンド」

「俺のターンドロ。俺はリバースカードオープン、リビングゲデットの呼び声！」

効果でクリッターを特殊召喚、さらにジャイアントウィルスを召喚。そして、三体のモンスターをリリース！

霊魂を司りし神よ！今ここに現れ、愚かな人間を蹂躪しろ！  
降臨せよ！幻魔皇ラビエル！

そして、クリッターの効果で幻魔の護衛兵を手札に加える！」

「幻魔だと……」

「俺はラビエルで、ガチガチガンテツに攻撃！  
天界蹂躪拳！」

「ガンテツの効果！  
オーバーレイユニットを一つ取り除くことで破壊されない！」

「なら、メイン2！俺は全弾発射フルバーストを発動させる！  
このカードの発動後、手札を全て墓地へ送る。

そして、墓地に送ったカードの枚数×200ポイントダメージを相手ライフに与える！

俺は手札の幻魔の護衛兵とダークリペアラを捨て、400ポイントのダメージだ！」

1700

「ターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺は死者蘇生発動！！効果で死霊騎士デスカリバー・ナイトを特殊召喚。

さらに、3体目の墓守の偵察者を召喚。最後にワンフォーワンを発動だ！手札を1枚捨てグローアップ・バルブを特殊召喚。

さあ、舞台はそろった！！

レベル4、デスカリバー・ナイトと墓守の偵察者に、レベル1グロ  
ーアップ・バルブをチューニング！！

レベル9シンクロ召喚、カモン

氷結界の龍トリシューラ！！」

「ちなみに言い忘れていたが、偵察者の召喚時、幻魔トークンを守備表示で特殊召喚だ」

「トリシューラの効果！！手札、墓地、フィールドから1枚ずつカードを除外する！！」

「幻魔は殺らせない！俺は墓地に存在する幻魔の護衛兵の効果を使う！！」

幻魔の護衛兵（オリカ）

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻0 / 守0

墓地に存在するこのカードを除外することで、このターン幻魔はフィールドを離れない。

この効果は相手ターンでも発動する事が出来る。

「よって幻魔は除外されない！」

「ちなみに、トリシューラが効果でどこのカードを除外するのか、どのカードを除外するのかを決めるのは効果解決時だ！！」

だから、効果解決時にカードが存在する場所のカードをゲームから除外出来る！！

墓地のクリッターと幻魔トークンを除外！！」

トリシューラの左目と正面の目が紅く光る。

「そして、巨大化を装備！攻撃力を倍に！」

2700 5400 5600（ガチガチガンテツ）

「そして、ラビエルを攻撃！！

破滅槍・トリシューラ！！」

2400

「ぐっ！……だがラビエルは護衛兵の効果でフィールドを離れない  
！」

「でも、トリシューラに攻撃力で負けているラビエルで何が出来る  
んだ？

しかも手札0の状態で……

俺はターンエンドだ」

「俺のターン！ドロー！……フウーハハハ！これがシュタインズゲ  
ートの選択か！」

「何だ？何を引いたんだ！！」

「知りたいのか？ならば、その目に焼き付けるが良い！

俺は幻魔皇ラビエルをリリース！」

「幻魔をリリースだと!!」

「来い、偉大魔獣ガーゼット!ガーゼットの効果!攻撃力をリリースしたモンスター1体の元々の攻撃力を倍にした数値にする!」

偉大魔獣ガーゼット 攻撃力8000

「ガーゼットでトリシューラに攻撃!幻魔獣撃カラストロフ!!!」

0

「……負けちまったか。覚えておけ俺の名は関原雄吾もし、次戦う事があったら絶対負けないからな!」

俺は近くの路地に入って行った

そして見慣れた街では無く、海岸に立っていた

……これが俺と凶真との出会いだった

第十六話 異世界決闘VS幻魔（後書き）

どうでしたか??

感想お待ちしております

第十七話 新たなる闘いVSゲングニール!! (前書き)

お久しぶりです

セロリです

最後の蒼き痣のシグナーが出ます

では、どうぞ

セリフがおかしかったので直しました

## 第十七話 新たなる闘いVSゲングニール！！

?????

「まさか、原作キャラと一緒に暮らしていたとはな  
灯台下暗しと言っかなんというか  
発見できた事に変わりはない  
狩らせてもらつとするか」

視点 雄吾

「ただいま」

俺は遊星達がいる場所にやっと帰ってこれた

「雄吾！！どこに行つてたんだ??」

それから、精霊界での事を話した

「そんな事があつたのか……………」

「遊星、俺たちも伝えなきゃいけネエ事があるだろ」

苦勞が言う 誤字にあらす

「そつだ……………」

そこからゴーストについて話しを聞いた  
もう原作も始まつてる

「シンクロキラーか……………」  
そりゃ結構辛いな」

俺は遊星にそう言った

「邪魔するぞ、ここにトリシューラを持つものはいるか」

イキナリ男が入って来た  
こいつ多分グングの奴だな

「邪魔するならかえっていただけるとありがたいですね」

「ふん、原作キャラ三人＋not原作キャラか……………」  
お前がトリシューラを持つものだな  
俺と決闘しろ、そして俺が勝ったらトリシューラを渡してもらおう  
か」

みんなが一斉に俺をみる

「だが断る」

みんなが一斉に倒れる  
俺、何かしたか??

「何故だ!?!」

怒鳴らなくても

「俺に利点が無い」

これ、最もな理由だろ

「お前が勝つたなら俺らのチームに入らないか??」

「チーム??」

「そつだチーム 疾き蒼フルソニック  
WRGPに参加する

佐藤 友希は知っているだろ??

あいつも参加しているぞ」

「なるほど、その勝負を受けてやるっ」

道路

「「決闘」」

「俺のターンドロー!!俺は手札からエアーマンを召喚!!効果で  
オーシャンをサーチ」

三沢くん!?

シンクロヒーローか!!

「融合発動オーシャンとイーターを融合、融合召喚アブソルートZ  
ERO!!」

「最強（凶）のHEROか……」

きょうの字がおかしいって???

これで合ってるよ 多分

「そのとうりだな  
ターンエンド」

俺のライディングデュエル用よデッキを見てやるよ

「俺のターンドロー!!俺はAジェネクスクラッシュャーを召喚!!  
守備表示」

「ほう、ジェネクスデッキか……」

「そしてカードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー!!俺はデブリドラゴンを召喚!!効果でイ  
ターを特殊召喚!!  
二体のモンスターをチューニング!!  
シンクロ召喚!!グングニール!!」

「出たか、氷結界の龍 グングニール!!」

「効果発動手札を二枚捨ててクラッシュャーと左の伏せカードを破壊」

「手札のヴェーラーの効果発動」

「っち

グングニールで攻撃！！ブリザードランス！！」

「トラップ発動、攻撃の無力化！！」

「ターンエンドだ」

「俺のターンドロー！！俺は手札抹殺発動」

「「ドロー！！」」

「俺は伏せカードを発動する、死者蘇生！！」

「ブラフか！！」

「現れるザ・ビックサターン！！」

「プラネットか……」

「サターンの効果発動！！手札を一枚切ってライフを10000ポイント払い攻撃力を1000ポイントアップさせる  
ファイナルモーターード！！」

3000

「サターンで攻撃ジ・エンド・オブ・コスモス！！」

2700

「ターンエンド」

「俺のターンドロー!!」

奴はサターンを効果破壊すると自滅する  
さあ、どう出るか??

「俺はミラクルシンクロフュージョン発動」

「何!!」

「墓地のグングニールとフィールドのエアーマンを融合、融合召喚  
!!波動竜騎士ドラゴエクイテス!!」

俺の負けだな

「アブソルートで攻撃!!フリージング・アット・モーメント!!」

「迎撃しろサターン!!」

2400

「アブソルートの効果発動!!零に帰れ オールZERO!!」

「サターンの効果発動お互いにこのカードの攻撃力分のダメージを  
受ける

ダブルインパクト!!」

「ドラゴエクイテスの効果発動!!  
相手からの効果ダメージを無効にしてその分のダメージを相手に与  
える

ミラーージュダメージ!!」

「ぐあああああー!!」

0

「ま、負けたか」

奴が俺に近づいてくる

「ふっ、合格だ」

「何??」

こいつ、なんて言った??

「お前はこれからチーム 疾き蒼フルソニックの一員だ

俺は皇貴、八神 皇貴だ

これからヨロシクな」

どうやらトリシューラは助かったらしい

「ああ、ヨロシク」

「いい感じのところ悪いが」

遊星が話しかけてきた

「雄吾、お前ライディングデュエルのライセンス持ってないだろ」

あ

「あああああああ!!」

俺の試練と言うより試験はまだ当分続きそうです

**第十七話 新たなる闘いVSゲングニール!! (後書き)**

主人公のライディングデュエル用のデッキはジエネクスです  
ほぼ私のデッキ丸パクですが  
感想お待ちしております

第十八話 初めてのライディングデュエルVS三極神(前書き)

どうしてこうなった

こらが正直な話です

何か書いてたらこうなってしまいました

それではござ

## 第十八話 初めてのライディングデュエルVS三極神

「雄吾、もっと体重のバランスに気をつけるんだ」

「雄吾！お前は何度言ったら分かるんだカーブの時はもっとこうするんだ」

この台詞のみ聞いて何をしているか分かった人は凄いです

只今、遊星と皇貴の特訓中です  
ええ、Dホイールのはい

とても難しいですね

もう一人のチームメイトの友希に聞いたところ

風と一緒に感じる感じよ

と言われました

よく分かりませぬね

ハイウェイ高架下

只今、自主練中です

やっと乗れる様になりました

そうしてハイウェイに入って走っていると

「君には不思議な力が宿っているようだ」

声が聞こえた

「私の名前はハラルドだ」

ち、チーム邪気眼ラゲナロクのリーダー

は、ハラルドだと

「君からは赤き龍とも違い三極神とも違う感じがする」

トリシユのことかな

「決闘しよう」

君もライディングデュエリストだろ」

「いいだろ、売られた決闘は買うだけだ」

「「ライディングデュエル、アクセラレーション!!!」」

「私のターンドロー!!! 私はモンスターをセットしてカードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺は手札からサイバードラゴンを特殊召喚  
！！」

サイバードラゴンで攻撃！！  
エポリユーションバーニースト！！」

「トラップ発動神の柎柎 グレイプニル  
効果で極星獣タングニョーストを手札に加える」

極星獣型の極星デッキか？？

「更に素早いビツクハムスターの効果でタングステルニをセット  
そして自身の効果でタングニョーストを特殊召喚！！」

「俺はカードを二枚伏せてターンエンド」

次のターン、極神が来る！！

「私のターンドロー！！私はタングニョーストを攻撃表示に変更し  
効果でグルファクシを特殊召喚！！  
三体のモンスターズをチューニング  
シンクロ召喚、極神皇トニースト！！」

空を割って巨人が現れる

闇のゲームだったら大惨事になるぞこいつら

「トールでサイバードラゴンを攻撃！！サンダーパイル！！」

「ガードブロック発動！！」

効果でダメージを無効にして一枚ドロウする」

「モンスターをセットしてターンエンド」

またセットモンスターか

「俺のターンドロー！！俺はレアルジエネクスコーディネーターを召喚！！」

効果でレアルジエネクスクラッシャーを特殊召喚！！」

神相手にして出し惜しみしてられるか

「二体のモンスターを、オーバーレイ！！」

二体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！！

カモン！！ガチガチガンテツ」

「エクシーズ召喚だと！？」

「エクシーズ召喚とは同じレベルのモンスターを二体重ねる事でエクストラデッキから召喚出来る召喚方法です

そして素材のモンスターはオーバーレイユニットとなってモンスターをサポートします」

「サポートと言う事はなにか特別な効果があるのか……………」

「ターンエンド」

「私のターンドロー！！私はトールの効「トラップ発動デモンズチエーン」

何っ！！

だがそれは失敗したなモンスターをリバーズ、墓守の偵察者！！  
効果で偵察者を特殊召喚！！」

墓守だと！！

「そして極星天ヴァルキュリアを召喚！！

二体の偵察者とヴァルキュリアをチューニング！！

シンクロ召喚、極神聖帝オーディーイン！！」

二体目の巨人が現れる

「神の力から逃れる事が出来るかな??」

同時刻

「何だ??あの巨人は??」

俺は今、謎のDホイラーと決闘を終えアキと共に帰ろうとしてい  
る時

空が割れ巨人が現れた

「遊星！！あれ！！」

アキが巨人の方を指差している

「あれ、雄吾じゃ無いかしら??」

「何っ！！」

俺はDホイールの出力をMAXにして、巨人のほうへ走り出した

「俺のターン!!」

今の状況は災厄だ

S p・ハイスピード・クラッシュの効果で

ガンテツとツールを破壊して来た

ガンテツは生き残ったが、その後オーデインに攻撃されてオーバー  
ユニットを使いきってしまった

さらにエンドフェイズにツール復活と、極星の理想的な動きだな

因みにこの世界では極神の効果はコストなしの蘇生、破壊なら相手  
からでも自分からでも復活出来るらしい

「雄吾!!」

この声は、

遊星!!

「遊星!!何でここに?!!」

「不動 遊星!!」

ふむ、仕方ないここでこの決闘は終わらせて貰おう  
君の力を見て貰うのは又の機会にしよう」

そう言ってハラルドは走り去って行った

そしてその後、ライセンス無しで決闘していた事がセキュリティに  
ばれて

牛尾さんと遊星に怒られました

第十八話 初めてのライディングデュエルVS三極神（後書き）

ハラルドさんの喋りかたがイマイチ分かりません

ハラルド好きの皆さんすいませんでした

プレミヤ感想お待ちしております

第十九話 新たなる物語V S N o . (前書き)

すみません

WRGP前編なんて言っただくせに

前回でその編は終わりました

すみません

今回からは新しくN o . 編をやります

かなり前に番外編予告をやりましたが

それを少し改造した物がこのN o . 編です

それではどうぞ

間違いがいくつあったので修正しました

第十九話 新たなる物語V S N O .

???

視点 遊星

「ここは何処だ??」

何も無い暗い空間、宇宙空間みたいな場所だな

遊星の元に光が集まってきた

「な、何だ!!」

そして一枚の黒いカードを創り出した

「このカードは??」

そして空間に光が差し込み

遊星は現実を引き戻された

視点 雄吾

「遊星、遊星!!」

「お、俺は………」

「驚いたよ遊星、イキナリ倒れるんだから」

「そうだカードは??」

遊星はそう言っつて自分のデッキケースの中を見た

「有った!!!このカードをさっき何も無い空間で手に入れたんだ」

「はぁ、いつから遊星まで厨二病になつたんだよ  
どんなカードだ??」

そして見せられたカードを見て絶句した  
その名もNo.39 希望皇ホープ

な、何でこの時代にこのカードが!?

しかも原作効果だし

これは何か5dsの原作には無かった何かが起きようとしているのかもしれない

「遊星、そのカードについて知りたいなら俺と決闘してくれないか??」

「何??雄吾はこのカードについて何か知っているのか??」

「ああ、だがこれを聞くにはかなりの覚悟をしてもらわないとな」

「成る程、俺に試練を出すと云う事が  
イイだろうその決闘受けて立つ!!」

路地裏

「行くぞ遊星!!」

「ああ」

「「決闘」」

「先攻はおまえにやるよ遊星」

「わかった、ドロー!!」

雄吾があえて後攻を取るとわ  
何か策があるのか??

「俺はマックスウォリアーを召喚  
そしてカードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンンドロー！！俺はレアルジェネクスマグナを守備表示で召喚

効果でレアルジェネクスクラッシャーを手札に加えるそして融合発動！！

手札のクラッシャーとフィールドのマグナを融合！！

炎と機械が交じる時、火炎の不死鳥が舞い上がる

融合召喚！！重爆撃禽ボムフェネクス！！

「ゆ、融合召喚！！」

「ボムフェネクスの効果発動！！

お互いのフィールド上のカード一枚につき300ポイントのダメージを与える

行け！！ボムフェネクス！！

「ぐわあああ！！」

2800

「俺はカードを二枚伏せてターンエンド」

「お、俺のターンンドロー！！俺はマックスウォリアーを守備表示にしてターンエンド」

「守備を固める??

それがお前の戦い方か！！遊星！！

俺のターンンドロー！！

ボムフェネクスの効果発動して1200ポイントのダメージを与える

「さらに俺は融合解除発動！！効果でクラッシャーとマグナに分離  
そしてAジエネクスリモートを召喚」

「合計レベル8か！！」

「甘い、温い、浅いは！！」

俺の決闘はそんな考えの三手先に行く

お前が欲する力を身してやるよ

レベル3リモートとマグナをオーバーレイ！！」

「お、オーバーレイ??」

「二体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚！！

No.20 蟻岩土ブリリアント！！」

「エクシーズ召喚だと!?!」

「エクシーズ召喚とは指定されたレベルのモンスター二体で行なう  
新しい召喚だ

そしてブリリアントの効果発動！！

オーバーレイユニットを一つ使う事で自分フィールドのモンスター  
全ての攻撃力を300ポイントアップさせる」

因みにブリリアントも原作効果になっていた

「ブリリアントで攻撃!!」

「トランプ発動！！攻撃の無力化！！」

「防いだか

ターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺はハイパーシンクロンを召喚！！

二体のモンスターをチューニング！！

シンクロ召喚！！飛翔せよ

スターダストドラゴン！！」

「来たか！！遊星のエースモンスター！！」

「ハイパーシンクロンの効果でスターダストの攻撃力を800ポイントアップさせる

行けスターダストドラゴンで攻撃！！

シューティングソニック！！」

2800

「残念だな遊星、No.はNo.以外との戦闘では破壊されないんだよ」

「何！！」

「どうするこのままだとハイパーシンクロンのデメリットでスターダストが除外されちまうぞ」

「俺はアドバンスドローを発動

スターダストをリリースして二枚ドロー！！」

何か良いカードを引いたっばいな

「俺は二重召喚を発動しゼロガードナーを召喚してターンエンド」

「俺のターンドロー!!」

俺はブリリアントの効果発動!!

そして攻撃」

「攻撃宣言前にゼロガードナーの効果を発動する」

「ターンエンドだ」

「俺のターンドロー!!俺はデブリドラゴンを召喚!!

効果でゼロガードナーを特殊召喚!!」

「遊星!!血迷ったかデブリドラゴンのデメリットでレベル4モンスターとのシンクロはできないんだぞ」

「そのとうりだ、確かにシンクロはできない  
シンクロはな!!」

やり方はさっき見させてもらったぞ雄吾

レベル4デブリドラゴンとゼロガードナーをオーバーレイ!!

二体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚!!

来いNo.39希望皇ホープ!!」

「エクシーズ召喚か!!」

「そしてこのカードは自分が通常召喚したターン手札から特殊召喚

出来る

来い！！ワンショットブースター！！

そして団結の力をホープに装備

行くぞ雄吾

希望皇ホープで蟻岩土ブリリアントに攻撃！！

ギヤラクティカブレイド  
銀河断絶斬！！」

「まだライフは残る！！」

「いや、終わりだリバーズカードオープン、ハーフシャフト  
効果でブリリアントをこのターン戦闘で破壊されなくする  
だが攻撃力が半分になる」

「何！！ぐわああああ」

0

「俺の勝ちだ雄吾

さあ、エクシーズモンスターについて教えてもらおうか」

「分かったよ遊星

だが少し前置きが長くなるかもしれん

俺はこの世界の人間では無い」

第十九話 新たなる物語 V S N o . (後書き)

次は雄吾の秘密を明かします

感想お待ちしております

第二十話 No. ハンティングVSゴールドラッシュ…！（前書き）

お久しぶりですセロリです

No. 編第二話です

楽しんで見て下さい

## 第二十話 No. ハンティングVSゴールドラット!!

視点遊星

「俺は、この世界の人間では無い」

何???と聞き返したくなる話だったが、いつになく真剣な雄吾の顔を見たら最後まで話しを聞こおと思った

「俺は、別の世界で一度死んだ……」

のかよくわからんが

この世界を救う為に元の世界からこの世界に飛ばされた選ばれた三人の戦士の一人だ

その証拠と言っては何だが、この世界には存在するはずの無いエクシーズモンスターを持って居たんだ」

「そうだったのか」

正直、突拍子もない話だったが、なんだか信じられた

「ふっ、遊星

疑わ無いのか??」

「ああ、俺達は仲間だ

俺は雄吾が嘘をつくとは思わない」

「そうか……………」

「誰にも何も言えなくて辛かっただろ雄吾、泣いてもいいんだぞ」

「遊星……………」

視点雄吾

俺はそれから遊星の胸の中で泣いた  
正直どの位泣いていたか分からない

「遊星、もう大丈夫だ」

「そうか、ならよかつ 『遊星!!』  
何だ??」

遊星のデュエルディスクから苦労の声がした

『遊星!!今お前がいる近くのビルで立て籠もり犯が居るんだってよ  
今から画像送るぜ』

そしてソリッドヴィジョンで一枚の画像が現れた

「これは!!..N.O.だ」

その男の肩にN.O.の紋章がついていた

「何???」

「N.O.には人を操って邪念を増幅させる力があるんだ  
多分憶測だが俺達は特別な力が体に宿っているから影響が無いんだ  
るっ」

「No. 操られていると言っ事は……………」

「この事件は決闘で解決できる」

ビル

「来るんじゃない!!」

目の前に暴走した男が居る

えっ、何でこんな事件現場に簡単に侵入出来たかって??

遊星ってリアルファイトも強いんだZE

「おい、決闘しろよ」

また言ってしまった

何かこのセリフ癖になるね

「へっ!! いいだろうNo. を手に入れた俺に掛かれば何人でも倒してやるよ」

「決闘」

「へっ!! 俺のターンドロー!!」

俺はフォトンベールを発動

手札の光属性モンスター三体をデッキに戻して三体の光属性モンス

ターを手札に加える、来い！！ワタポン」

フィールドに白いモジャモジャが三体现れる

「ワタポンは効果で手札に加わった時特殊召喚出来るんだぜ

そして三体のモンスターをオーバーレイ

来い！！No.56ゴールドラット！！」

いや、雑魚と呼ばれる類のNo.を一ターンで出してドヤ顔されても……

「ターンエンドだぜ！！」

「はあ、俺のターンドロー！！

俺はビックジョーズを召喚、更に効果でシャークサッカーを特殊召喚  
二体のモンスターをオーバーレイ

来い！！ブラックレイランサー！！」

「No.以外のエクシースモンスター！！

雄吾、どうするんだNo.はNo.以外では破壊され無いんじゃ？  
？」

「まあ見てなつて

ブラックレイランサーの効果発動！！

オーバーレイユニットを一つ使い相手モンスターの効果を無効にする  
No.はNo.以外では破壊され無いと言ってもそれは所詮モンス

ター効果！！

貫けパラライズランス！！」

このセリフ一度は言ってみたかつたんだよね

「更に俺は死者蘇生を発動！！効果でビックジョーズを特殊召喚  
そしてシャークサツカーを特殊召喚！！」

手札事故じゃないかって??

いや違うこれはいいい手札なんだ！！

きつと

「二体のモンスターをオーバーレイ  
来い！！潜航母艦エアロシャーク！！」

「二体目のエクシーズモンスター！！」

「エアロシャークの効果を発動！！  
手札×400ポイントのダメージを与える  
800ポイントのダメージだ」

「があああ！！」

「二体のモンスターで攻撃  
ビッグイーター！！ブラックランス！！」

「ぐわあああああ！！」

0

「ぎつと、こんなもんかな」

すると後ろから何者かの声が聞こえた

「へえー、凄い凄い

NO.相手に後攻ワンターンキルだったさ」

「確かに……………凄い……………」

「誰だ!!」

俺は後ろにいた二人の子供に話しかけた

「僕たちかい??」

僕たちは絶望の騎士団デイスピア オブザナイト  
ジェミニの一角を補う決闘者  
双子だよ」

「雄吾……………には……………」

デイスピアと言ったほうが……………分かりやすい」

「デイスピア!!」

かつて俺を完膚なきまで叩き潰した決闘者

「僕たちと決闘しないかい??」

「命と……………NO.をかけた……………」

闇の決闘を」

「いいだろう」

「さて雄吾、俺との決闘も合わせて

これで三連戦になるんだぞ!!」

「だが遊星が一人で二人を相手に出来るような奴らでは無い事は確かだ」

デイスペアの事を知っているって事はこいつらも相当強いはずだ

「だから俺も」どけ雄吾、遊星!!」  
何!!」

白色のDホイールがビルの窓を破壊して入ってきた

「これ修理費どうするんですか??」

ジャックさん

「この決闘、俺と遊星で受ける!!」

「無視ですか」

「俺は皇貴から貴様らの事やN.O.の事は聞いて来た!!だから俺でもこいつらの相手にはなるわ!!」

「だから修理費は??」

「ありがとうジャック」

「いくぞ遊星!!」

「『『『決闘』』』」

「おい、俺は完全無視かよ!!」

第二十話 No.ハンティングVSゴールドラッシュ…！（後書き）

誤字脱字とつがありましたら

教えてくれたらありがたいです

感想お待ちしております

第二十一話 No. の新たな可能性VSジエミニ(前書き)

お久しぶりですセロリです

ジエミニ戦です

宜しく願います

## 第二十一話 No. の新たなる可能性VSジエミニ

「「「決闘」」」

「僕のターンドロ」

先攻はジエミニ兄のようだ

「僕はモンスターをセット

カードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ」

俺はシールドウイングを守備表示で召喚  
カードを二枚伏せてターンエンド」

「私……………ターンドロ」

ジエミニクイーンを召喚……………

このカードはダイレクトアタックできる  
1800ダメージ……………

エンド」

ジエミニクイーン

レベル4 1800 1700

このカードはダイレクトアタックできる  
????????????????????

6200

「俺のターンドロロー!!」  
俺はダークリゾネーターを守備表示で召喚  
カードを一枚伏せ  
ターンエンド」

「僕のターンドロロー!!」  
僕はモンスターを反転召喚  
双子の使い 召喚師!!  
このカードをがリバースした時デッキから  
双子の、もしくはジェミニも名の付いたモンスターを特殊召喚できる  
来い!!双子の使い 剣士!!」

双子の使い 召喚師  
レベル4 2000 1800 チューナー  
このカードがリバースした時デッキから双子の、  
もしくはジェミニと名の付いたモンスターを特殊召喚できる

双子の使い 剣士  
レベル4 1800 2000  
このカードが特殊召喚に成功した時相手に1000ポイントのダメージを与える

「双子の使い 剣士の効果  
このカードが特殊召喚に成功した時相手に1000ポイントのダメージを与える!!」

5200

「レベル4双子の使い 召喚師にレベル4双子の使い 剣士をチューニング!!」

シンクロ召喚！！ジェミニキング」

ジェミニキング

シンクロ レベル8 2800 2800

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える

????????????????????

「ジェミニキングでシールドウイングを攻撃！！

このカードは貫通ダメージを与える

更にジェミニクイーンでダイレクトアタック」

「ジェミニキングのダメージ発生時にトラップ発動

ガードブロック発動！！ダメージを無効にして一枚ドロウする

この場合ジャックが一枚ドロウする」

3400

「ターンエンド」

「俺のターンドロウ！！」

俺は希望の転生を発動！！

自分のデッキからモンスターカードを二枚墓地に送る

二ターン後のスタンバイフェイズ時にデッキからモンスターカード

を手札に加える

希望の転生

魔法 原作オリカ

自分のデッキからモンスターカードを二枚墓地に送る

二ターン後のスタンバイフェイズ時にデッキからモンスターカードを手札に加える

「俺はゼロガードナーとボルトヘッジホッグを墓地に送る

そしてデブリドラゴンを召喚してゼロガードナーを特殊召喚！！

二体のモンスターをオーバレイ

二体のモンスターでオーバレイネットワークを構築

エクシーズ召喚！！来いNo.39希望皇 ギャラクティックホープ！！

ホープでジェミニクイーンに攻撃！！ギャラクティック銀河断絶斬！！」

7300

「許さないよくも妹のカードを！！

リバーズカードオープン、双子の怒り

ジェミニと名のつくモンスターが破壊された時そのモンスターの攻撃力分のダメージを与える

さらに自分のジェミニと名のつくモンスターの攻撃力を500ポイントアップさせる」

双子の絆

ジェミニと名のつくモンスターが破壊された時そのモンスターの攻撃力分のダメージを与える

さらに自分のジェミニと名のつくモンスターの攻撃力を500ポイントアップさせる

「ターンエンド」

「私……………ドロー

ジェミニキングでシールドウイングに攻撃」

「ホープの効果、ムーンバリア」

「ターンエンド……………」

「俺のターンドロー!!」

俺はフレアリゾネーターを墓地に送りパワージャイアントを特殊召喚!!

レベルが3ダウン、そしてダークリゾネーターがいる事でボルトへツジホツグを特殊召喚

三体のモンスターをチューニング

シンクロ召喚、我が魂レッドデーモンズドラゴン!!

更にリバースカードオープン、スカーレットカーペット

二体のリゾネーターを特殊召喚!!

二体のモンスターをオーバーレイ

エクシーズ召喚!! 来いNo.30破滅のアシッド・ゴーレム!!」

ジャックがアシッド・ゴーレムを召喚すると

遊星とジャックの前に真っ白なカードが表れる

「行くぞジャック!!」

「ああ」

「二体のNo.をクロスナンバーズチェンジ!!」

二体のNo.でオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚、<sup>クロス</sup>CNo.破滅の皇ホープ・レイ!!」

<sup>クロス</sup>CNo.破滅の皇ホープ・レイ

ランク 3000 3000

このカードはNo.36希望皇ホープとNo.30破滅のアシッド・

ゴーレムを重ねてエクストラデッキから特殊召喚できる

このカードのエクシーズ素材を一つ取り除く事で相手モンスターの攻撃力を半分にする

相手モンスターの攻撃宣言時このカードのエクシーズ素材を一つ取り除く事で相手モンスターの攻撃を無効にしてそのモンスターの攻撃力の半分のダメージを与える

「破滅の皇ホープ・レイの効果発動!!

エクシーズ素材を一つ取り除く事でジェミニキングの攻撃力を半分にする

そして破滅の皇ホープ・レイで攻撃!!

破滅の剣 アルティメットストーム!!」

5950

「さらにレッドデーモンズドラゴンで攻撃!!

アブソリュートパワーフォース!!」

2950

「ターンエンド」

「エンドフェイズ時に墓地のジェミニキングの効果発動

このカードが破壊されたエンドフェイズ時に墓地のジェミニクイーンを特殊召喚する

これでダイレクトアタックすればゲームセットだ

僕のターンドロー!!

(このカードは………何か嫌な予感がする)

僕はジェミニクイーンで攻撃!!」

「攻撃宣言時に破滅の皇ホープ・レイの効果発動  
このカードのエクシーズ素材を一つ取り除く事で相手モンスターの  
攻撃を無効にしてそのモンスターの攻撃力の半分のダメージを与え  
る！！」

リフレクションアシッドバリア！！」

2050

「馬鹿な……………」

僕はカードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー！！」

俺は希望の転生の効果でドッペルウォリアーを手札に加える

バトル！！破滅の皇ホープ・レイで攻撃！！

破滅の剣 アルティメットストーム！！」

「トラップ発動！！双子の絆

相手の攻撃宣言時に発動出来る

自分の墓地からジェミニキングを特殊召喚して攻撃対象をジェミニ  
キングに変更する

しかしこの効果で特殊召喚したジェミニキングの  
攻撃力は0になる

ジェミニクイーンは、妹はもう攻撃させ無い」

ジェミニ兄はそう叫んで

妹をかばう形で立った

「ぐわああああ！！」

0

「さて、お前達は何者なのか聞かせてもらおうか」

俺がそう言つと、奴の前の空間が切れた

そして中から変なメイクをしたピエロ???が出てきた

「こっちにこいジェミニ」

ピエロ???がジェミニの二人を掴んで空間の裂け目に入れた

「蒼き竜のシグナーと赤き竜のシグナーさんまた会いましょう」

そう言つてピエロ???が消えて行った

「くそっ!!逃げられたか」

「さて雄吾、奴らはまた会いましょうと言つた

恐らくまたいつか現れるだろう」

確かに正論だ

「ディスペア オブザナイト絶望の騎士団か……………」

俺らの存在が原作を大きく狂わせたらしいな

第二十一話 No. の新たな可能性VSジエミニ（後書き）

感想お待ちしております

また、新しくオリジナルの小説を書き始めました  
そちらも読んでいただけると嬉しいです

特別番外編！！最強の竜はターレだ（前書き）

今回は番外編です  
宜しく願います

## 特別番外編！！最強の竜はダーレだ

雄吾「さて、始めました

どうでもいい番外編コーナー」

龍可「今回は誰のドラゴンが一番かっこいいかだそうですね」

ジャック「勿論俺のレッドデーモンズドラゴンだ！！

圧倒的なパワーと圧倒的な破壊力

この上を行くドラゴンは居ないは！！」

龍亜「いや、俺のライフストリームドラゴンだ！！

ライフを完全に守り、自身の破壊も防ぐ効果は強力だ！！」

ジャック「ふん、召喚条件がキツイがな！！」

龍亜「な、何を！！」

苦勞「まあ、落ち着けよ

一番かっこいいのは勿論ブラックフェザードラゴンに決まってるじやねえか

ライフストリームドラゴンと同じくライフを守る効果と攻撃力を下げ  
げる効果

さらにバーン効果付きだぜ！！」

アキ「相手ターンに狙われたらひとたまりも無いけどね

やっぱり一番かっこいいドラゴンはブラックローズドラゴンよ  
召喚時のリセット効果と相手モンスターの表示系式の変更

さらに攻撃力のダウンよ

最近多く使われてるガチガチガンテツにも有効よ」

ジャック「パワーがないパワーが」

アキ「なんですって!!」

友希「ここは僕のブリューナクだよ？

強力なバウンス効果もち？

更にレベルが合わせやすいからね？」

ジャック「パワーがないパワーが」

アキ「まず、ドラゴンじゃ無いわよ

海竜よ」

友希「orz?」

皇貴「ここは俺のグングニールだな

強力な破壊効果を持ち、更にパワーもそこそこある」

龍亜「ライフストリームドラゴンより召喚条件がツライの???」

皇貴「ぐはっ!!」

皇貴は倒れた

龍可「ここは私のエンシエントフェアリードラゴンよ

ライフ回復とモンスターの特殊召喚が出来るは

守備力も高いし」

アキ「ウナギは黙ってて」

龍亜「うえーん

アキさんがイジめる」

雄吾「よしよし、無くな」

遊星「皆！！自分のドラゴンをただアピールするだけじゃダメだ  
皆のドラゴンの良いところについて話し合わないと  
仲間どうしで言い合っていてどうするんだ  
因みに俺はスターダストドラゴンが一番だと思う」

ジャック「……………」

アキ「……………」

龍亜「……………」

龍可「……………」

苦勞「……………」

友希「……………」

皇貴「……………」

雄吾「……………」

最後のがな、最後のが  
そして皆……！

俺を忘れてもらっては困るな

俺のトリシューラは三枚のアドバンテージを稼いで  
パワーもなかなかだぞ！！」

遊星「召喚後は唯のバニラだな」

雄吾「遊星、貴様裏切ったか！！」

色々と場がカオスになって来たので

ここで終わらせてもらいます byセロリ

特別番外編！最強の竜はターレだ（後書き）

感想お待ちしております

**第二十二話 次なる刺客?? VS ドラゴン (前書き)**

お久しぶりです、セロリです

今回はフラグを建てるだけ建ててではんがなかった

あの子に登場して貰います

では、どうぞ

## 第二十二話 次なる刺客??? VSドラゴン

????

俺にもスターダストドラゴンのようなカードがあれば  
不動遊星よりも強くなれるのに

少年はそんな事を考えながら歩いていた

「その願い、叶えてあげましょうか??」

後ろから不意に声が聞こえた

「だ、誰だ!!」

仮面をかぶった男がいた

「お静かに、そうですね私は星の使いとでも名乗っておきましょう  
かね

簡単な話、貴方にこのカードを渡しに来ました  
貴方の力になるはずですよ」

ギャラクシーアイズオトンドラゴン  
「銀河眼の光子竜!!」

勝てる、このカードがあれば不動遊星にも

「待っている不動遊星!!」

俺はお前を超えて見せる!!」



遊星とジャックだけだよなあ??？」

「ああ、そうだなこの先他の皆がNo.1を持っている人間に襲われ  
たら

ひとたまりも無いな」

俺らがこれからの事について話した後  
俺らは外で星を見ながら喋っていた

「見つけたぞ不動遊星!!！」

少年が遊星を睨みつけて近寄って来た

「あ、誰??君??？」

「君は、エキセントリックボーイの少年」

「俺の名はスライだ!!！」

俺はお前のスターダストドラゴンにも負け無い力を手に入れた!!！  
決闘だ不動遊星!!！」

「いいだろう、売られた決闘は買うまでだ」

「「決闘」」

「俺の先攻ドロー!!！俺は仮面竜を召喚!!！  
カードを二枚伏せてターンエンド!!！」

「俺のターンドロー!!！俺はシールドウイングを召喚  
ターンエンド」

遊星が伏せカードなしだと  
遊星、相手が子供だからって油断してるんじゃない………

不動遊星

「俺のターンドロー!!」

なんだこの手札はモンスターしか居ないじゃ無いか

「俺はシールドウイングを召喚!!  
ターンエンド」

関原雄吾

「俺のターンドロー!!俺は仮面竜をゲームから除外して  
来い!!レッドアイズダークネスメタルドラゴン!!  
俺はレッドアイズダークネスメタルドラゴンの効果でマテリアルド  
ラゴンを特殊召喚!!  
更にレッドアイズワイバーンを召喚!!  
三体で攻撃!!」

「っち!!」

「どうした不動遊星！！お前の実力はこんなもんなんかよ！！  
ターンエンド」

「俺のターンドロー！！」

このカードは！！  
さっき調整した時に混ぜっていたのか  
だがちょうどいい

「俺はリロード発動！！」

俺は手札をデッキに戻してドローし直す  
ドロー！！

俺はブルーエレメントを特殊召喚！！」

ブルーエレメント  
レベル1 0 0

自分フィールド上にモンスターが存在し無い時手札から特殊召喚出  
来る

墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で  
デッキから水属性モンスターを手札に加える事が出来る

「更にジャンクブリーダーを召喚  
二体のモンスターをチューニング  
シンクロ召喚！！氷の騎士  
ブリザードクルセイダー！！」

ブリザードクルセイダー  
レベル5 2500 300

一ターンに一度相手の手札を一枚確認して発動する  
そのカードの種類によって以下の効果を得る

モンスター・相手モンスター一体を選択して破壊する  
魔法・相手のフィールド上の魔法、罨を一枚破壊する  
罨・次の相手のターン相手はバトルフェイズを行う事が出来ない

「ブリザードクルセイダーの効果発動！！  
選択したカードは罨カード、よって相手はバトルフェイズを行う事が出来ない」

「つち！！面倒な効果を使いやがって！！」

「俺はカードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ―！！俺は手札から龍の宝札を発動  
自分フィールド上のドラゴン族モンスター一体につき  
一枚カードをドロ―する！！  
フィールド上のドラゴン族モンスターは三体！！よって三枚ドロ―  
！！」

龍の宝札

自分フィールド上のドラゴン族モンスター一体につき一枚カードを  
ドロ―する

えー、何それチート効果？？

「俺はレッドアイズダークネスメタルドラゴンの効果でドラゴン族  
モンスターを特殊召喚する  
見る！！不動遊星！！これが俺が手に入れた最強の力だ！！  
現れる光の化身！！銀河眼の光子竜！！」

「これが、スライの力が………  
スライ！！君は間違っている！！  
力を手に入れたところで、人が進化しなければ何も意味はない！！」

「黙れ！！黙れ黙れ黙れ黙れ黙れ黙れ！！

不動遊星！！貴様に俺の何が分かる！！

貴様に俺の、俺の

何が分かるって言うんだ！！」

スライが叫ぶ

「ふむ、なら君は遊星の何が分かるって言うんだ？？」

俺が問いかける

「遊星はな、ただの普通のどこにでもいる人間何だよ

何度も諦めかけて、何度も仲間との絆に救われて

ただただ力があつたところだな、何一つ変わら無いんだよ！！

何かを護りたい、何かを愛したい

そして何かを信じていたい……………

人間が本当の意味で強くなるには力なんていら無いんだよ！！

ただ必要な事はたつた一つたつた一つ

たつた一つの簡単で単純明快何だよ

何かを信じる心の強さだ！！

お前は手に入れた力に溺れてさまよっていたんだ

お前だつて俺たちの仲間だぞ

なあ、遊星？？」

「ああ、そうだな

スライ、俺は一緒に学校を守ろうとしてくれた君を仲間だと思って

いる」

「本当にか、俺、俺、  
お前達の仲間で良いのか??」

俺と遊星は顔を見合わせて頷いた

「ああ、スライ!!お前は俺たちのは仲間だ!!」

「そうか、俺は力を手に入れて大切な事にきずいちゃいなかったんだな

ありがとう不動遊星

俺はサレン『サレンダーは認められませんでした』なんだと!!」

「待つて下さいよこんな楽しいショーをここで終わらせるなんて勿体無いじゃ無いですか

だから私が直々にもっと楽しくさせましょうと思ひまして」

「お前は、星の使い!!」

「さて、私もショーに混ぜて貰いましょうか」

『バトルロワイヤルモードに移行します』

「遊星、どうやらやるしかないようだ」

「そうだな、勝つぞ!!スライ!!」

「ああ」

「決闘！」

**第二十二話 次なる刺客??? VSDドラゴン(後書き)**

今回も遊星の決闘でした

遊星さんマジ主人公だZE!!

次はバトルロワイヤルルールでの決闘です

フィールドは今回の続きになります

またお会いしましょう

## 第二十三話 マスカレードの開幕！！VS仮面奇術師（前書き）

お久しぶりですセロリです

まずはお知らせです、そんなに関係無いですが前話のアイスエレメントをブルーエレメントに改名しました  
では最新話をどうぞ

## 第二十三話 マスカレードの開幕！！VS仮面奇術師

関原 雄吾

「さて、さてさてさてさてさて  
ショーの続きを始めましょうか」

「っちー！！マスカレード仮面舞踏会なら他所でやりな！！  
ターンエンドだ」

「私のターンドロー」

私は仮面奇術師 ムーンを召喚

効果発動、このカードの召喚時、同じレベルの仮面奇術師と名の付くモンスターをデッキから特殊召喚出来る

さらにこの効果にチェーンして

トリック奇術レベルアップを発動

効果で仮面奇術師のレベルを2アップさせる

ムーンのレベルを5に変更

ムーンの効果で仮面奇術師 ガイアを特殊召喚」

仮面奇術師 ムーン

レベル3 500 200

このカードの召喚時、同じレベルの仮面奇術師と名の付くモンスターをデッキから特殊召喚出来る

トリック奇術レベルアップ

速攻魔法

自分フィールド上の仮面奇術師一体のレベルを2アップさせる

仮面奇術師 ガイア

レベル5 2300 1200

一ターンに一度相手モンスター

一体の効果をエンドフェイズまで無効にする事ができる

「ガイアの効果でマテリアルドラゴンの効果を無効に

二体のモンスターをオーバーレイ!!

来い!! No.61ヴォルカザウルス」

「ヴォルカザウルスだと!!」

鬼畜恐竜きた!!

「ヴォルカザウルスの効果発動

銀河眼の光子竜を破壊する

唸れ、マグマツクス!!」

「ぎゃ、ギャラクシーアイズ!!」

1000

「さらにブリザードクルセイダーを破壊する

唸れ、マグマツクス!!」

1600

「クッ!!」

不味い遊星のライフが!!

「ヴォルカザウルスで不動遊星にダイレクトアタック!!」

「ガードブロック発動!!」

「カードを一枚伏せてターンエンドです」

「俺のターンドロ―!!俺は手札からレッドエレメントを特殊召喚  
!!」

更に墓地のブルーエレメントを除外して効果発動、デッキからサル  
ベージウオリアーを手札に加える」

レッドエレメント

レベル1 0 0

自分フィールド上にモンスターが存在し無い時手札から特殊召喚出  
来る

墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で

デッキから炎属性モンスターを手札に加える事が出来る

「そしてレッドエレメントをリリースしてサルベージウオリアーを  
アドバンス召喚

サルベージウオリアーの効果発動!!

墓地のレッドエレメントを特殊召喚!!

二体のモンスターをチューニング!!

シンクロ召喚!!炎の槍使い

ヘルフレイムランサー!!」

ヘルフレイムランサー

レベル6 2000 2000

このカードは相手フィールド上のモンスターの数により効果を得る  
二体以上 このカードの攻撃力は800ポイントアップする

四体以上 このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、  
その守備力を攻撃力が超えていれば、  
その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える

「ヘルフレイムランサーは相手モンスターが二体以上居る時パワー  
を800ポイントアップする！！

バトルロワイヤルルールによりスライのモンスターも相手モンスター  
として扱うためパワーをアップ！！  
行け！！ヘルフレイムランサーで攻撃  
バーニングスピアー！！」

3700

「ターンエンド」

「俺のターンドロー！！俺は未来融合 フューチャーフュージョン  
を発動し五体のドラゴンを墓地に

俺はレッドアイズダークネスメタルドラゴンの効果発動！！墓地の  
銀河眼の光子竜を特殊召喚！！

そして銀河眼の光子竜でヴォルカザウルスを攻撃

効果発動！！銀河眼の光子竜とヴォルカザウルスをゲームから除外  
する！！」

「この時を待つて居ましたよ

自分フィールド上のモンスターがゲームから除外された時このカー  
ドは発動出来る

トリック  
奇術王の降臨！！

デッキの上から15枚のカードをゲームから除外する

その後デッキから仮面奇術王 パンドラを特殊召喚する」

トリック  
奇術王の降臨

自分フィールド上のモンスターがゲームから除外された時発動出来る  
自分のデッキの上から15枚のカードをゲームから除外する  
その後デッキから仮面奇術王 パンドラを特殊召喚する

仮面奇術王 パンドラ

レベル12 ??? ???

このカードは通常召喚出来ない

このカードは王の降臨の効果でのみ特殊召喚出来る

このカードの攻撃力は除外されて居る仮面奇術と名の付くモンスター  
1×300ポイントアップする

1ターンに一度ゲームから除外されて居る仮面奇術と名の付くモン  
スターを一体特殊召喚出来る

「王の降臨によって除外された仮面奇術師は12枚!!  
よって仮面奇術王 パンドラの攻撃力は3600!!」

「なっ!!」

バトルフェイズを終了、この時銀河眼の光子竜の効果で除外されて  
いたモンスターをフィールドに戻す  
カードを一枚伏せてターンエンド」

「私のターンドロー!!」

さてそろそろこのショーもフィナーレの時間の様ですね

先ずは仮面奇術王 パンドラの効果発動!!

除外されて居る仮面奇術師 デモンを特殊召喚する

仮面奇術師 デモンは時間を操る奇術師だね

1ターンに一度相手モンスターを次の自分のスタンバイフェイズま  
で除外出来るんですよ

デモンの効果でヘルフレイムランサーを除外!!」

仮面奇術師 デモン

レベル8 600 1500

一ターンに一度相手モンスターを次の自分のスタンバイフェイズまで除外する事が出来る

「何!!」

不味い、これじゃ遊星が!!

「行け!!ヴォルカザウルスで不動遊星にトドメ」

0

「ぐああああ」

「ゆ、遊星!!」

「どうですか、スライ

自分の過ちのせいで、自分と関係ない人間が傷付く気分は??」

「最悪だ、ホントに最悪だ

何が最悪だと言うとトドメをさしたお前より

何も出来なかつた俺が最悪だ

だから遊星の代わりに俺がてめえを倒す」

「ふむ、スライ

君はもつと深い闇を持っていたと思ったのですが

残念です、不動遊星の友情ごっこのせいで貴方の闇がなくなつてしまっていたなんて

残念です非常に残念ですよスライ  
このショーを楽しみにしていた私のワクワクを返して貰いましょう  
か」

「俺がいつ見世物になった俺は俺以外の何者でも無い  
お前の決めつけなんかくそくらえだ」

「さてならこのショーを終わらせましょうかパンドラでマテリアル  
ドラゴンを攻撃  
暗き静寂を ブラックナイトメア」

「速攻魔法発動!!突進

効果でマテリアルドラゴンの攻撃力を700ポイントアップさせる」

800

「そんな古いカードを  
ターンエンド」

「俺のターン!!」

頼む来てくれ

「ドロー!!」

希望は繋がった

「魔法発動!!奇跡の竜札

手札のドラゴンを捨てて二枚のカードをドローする」

二枚、あと二枚パーツが足り無いんだ

「ドロー……！」

ありがとう、俺のデッキ  
ありがとう俺の仲間……！」

「俺はレッドアイズダークネスメタルドラゴンの効果発動……墓地  
の真紅眼の黒竜を特殊召喚……！」

「また懐かしいカードを」

「残念だなお前はここで終わりだ俺は真紅眼の黒竜をリリースして  
真紅眼闇竜を特殊召喚……！」

父さんが始めてくれたカード……！  
決闘始めるきっかけのカード

「先ずは銀河眼の光子竜とレッドアイズダークネスメタルドラゴン  
でヴォルカザウルスを攻撃……！」

破壊され無いNo.の効果が仇になったな

2900

「真紅眼の闇竜でヴォルカザウルスを攻撃……！  
そしてダメージステップに速攻魔法発動……！飛龍天舞……！」

飛龍天舞 アニメオリジナル  
速攻魔法

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。  
自分のデッキからドラゴン族モンスターを4枚まで選択して墓地へ送る。

選択したモンスターの攻撃力は、エンドフェイズまでこの効果で墓地へ送った

ドラゴン族モンスターの数×300ポイントアップする。

「効果で四体のドラゴンを墓地に送りパワーを自身の効果と合わせて2400ポイントアップさせる」

「なんだと!!」

「終わりだ、フルパワーダークネスメテオ!!」

「ぐあああああああああああああ」

0

「ふん、仮面舞踏会マスクレードなら他所でやるんだっただな」

星の使いの仮面が砕け散り

星の使いは夜の大気に溶けて消えて行った

「お前の敗因は

俺を利用しようとした事と

俺を舐めた事

最後に

仲間を傷付けた事だ」

良かった、スライは俺や遊星を仲間と認めてくれた様な

こうして一つの闘いは幕を閉じた

**第二十三話 マスカレードの開幕！！VS仮面奇術師（後書き）**

スライはあの頃のアニメをよく覚えてませんのでキャラがすこしおかしいですが

そこはこの小説のスライととってほしいです  
感想お待ちしております

クロス、また一回やって見たいですね

第二十四話 動き始めた敵VSアキさん！？（前書き）

どうもセロリです

最新話、楽しんで見ていただけると嬉しいです

第二十四話 動き始めた敵VSアキさん!?

視点 十六夜 アキ

十六夜アキ

500

モンスター ブラックローズドラゴン

魔法罫 無し

???

4000

モンスター ????

魔法罫 2枚

なにこいつ強い!!

「ふむ、シグナーの一人といえこの程度か……遊びは終わりだ  
十六夜 アキよ再び闇の道に堕ちるがいい  
????でブラックローズドラゴンに攻撃」

「きやあああああ」

0

視点 関原 雄吾

俺は朝、新聞を読んでいた  
オヤジ臭いとかいうなよ  
せめて庶民的で知的な少年Aとしてくれ

閑話休題

そこで俺は面白い記事を見つけた

「おい、遊星

夜、謎の仮面を被った決闘者が現れて  
そいつに会った決闘者が決闘で負けると行方不明になって居るんだ  
とよ

仮面の決闘者って昨日の奴かな??」

「そうかもな、しかもその謎の仮面の決闘者は複数犯らしい  
同じ時間帯にやられた奴が何人かいるらしい」

「なるほど、以外とあいつ強かったしな  
あんなのが何人もいたらセキュリティーもお手上げなんじゃ無いの  
??」

「実際、俺もスライがいなかったら行方不明になっていたかもな」

「それは笑えない冗談だな」

夕方

「遊星！！アキさん知らない??」

夕方、龍亜と龍可がやって来てそう聞いて来た

「いや、知らないが  
どうかしたんか??」

「今日アカデミアを休んでいて  
どうしたんかなーと思ってアキさんの家に行ったら昨日の夜から帰  
って来ていないって言われて  
後はここぐらいかなと思って」

「昨日の夜だと!!」

俺は朝の新聞の記事の内容が蘇って来た

「遊星!!」

「ああ」

遊星も同じ事を考えていたらしい

「俺と遊星で手分けして探すから  
龍亜ちゃんと龍可ちゃんはここで待っていて  
遊星はクロウとジャックに連絡を」

そう言って俺は飛び出していった

路地裏

俺はアキさんと思われる人を路地裏で発見して追いかけて居る

「待ってくれ、アキさん!!」

追いかけて居る内に行き止まりに来た  
そうすると俺の後ろに茨の壁が出来た

「なっ!!」

「ほう、ブルーシグナーの方がかかりましたか  
私としてはレッドシグナーの方を先に殲滅したかったのですが」

あれ、アキさんってこんな喋り方だったけ??

「お前は何者だ!!」

「私ですか、私は十六夜 アキですよ」

「嘘をつくな!!」

「いえ、この体は十六夜 アキのもので、少し借りさせてもらっていますよ」

「くそ、目的は何だ!!」

「こうして一人一人シグナーを罠にはめて殲滅して行くつもり  
して

以外とジエミニが使えなかった物で

私の傀儡を使って人を操り

人海戦術でシグナーを殲滅しようと思ったんですよ

いくらシグナーといえど何度も決闘すれば神経の疲れでプレイミス  
が多くなるのでは??」

「お前は絶望の騎士団ディクスヘア オブザナイトの人間か」

「そのとおりです」

「そうか、ならば今ここでお前を倒してアキさんを救う」

「イイでしょう」

「「決闘!!!」」

「俺のターンドロー!!!俺はモンスターをセットしてカードを二枚  
伏せ

ターンエンド」

「私のターンドロー

私はローンファイアブロッサムを召喚そしてそのままリリースして

デッキより椿ティタニアルを特殊召喚

バトル、椿ティタニアルでセットモンスターに攻撃」

「俺は墓守の召喚師の効果発動!!!

デッキから司令官をサーチ」

ネクロバレーなら植物に刺さるはずだ

「ターンエンドです」

「俺のターンドロー!!」

俺は司令官を捨ててネクロバレーをサーチ、そのまま発動!!

そして俺はモンスターをセットしてターンエンド」

「私のターンドロー」

ふむ、椿ティタニアルで攻撃します」

「速攻魔法発動、収縮!!」

そして墓守の偵察者の効果でデッキから召喚師を特殊召喚!!」

2900

「私はカードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロー!!俺は伏せカードオープン、サンダーブレイク!!」

手札を一枚捨ててティタニアルを破壊する」

「イイでしょう」

「そしてネクロバレーを手札に戻す事で先鋭のゼピュロスを特殊召喚!!」

グローアップバルブを召喚!!」

偵察者とゼピュロスにグローアップバルブをチューニング!!」

集いし星々が 破滅へ導く槍となりて

世界を蹂躪する

シンクロ召喚 来い

氷結界の龍 トリシューラ！！

効果で伏せカードと手札、そして墓地のローンファイアブロッサムを除外する」

「ブルーシグナーの象徴のカードですか」

「そしてデッキトップを墓地に送りグローアップバルブを特殊召喚  
！！

俺は召喚師とグローアップバルブをチューニング！！

集いし星々が 怒りに燃える破壊の右手を創り出す

シンクロ召喚！！アームズエイド

召喚師の効果で司令官をサーチ」

「一ターンで二度のシンクロ召喚か」

「俺はトリシューラでダイレクトアタック！！破滅槍 トリシューラ！！」

200

「自分フィールド上にカードが存在し無い時にダメージを受けた時  
個のカードは特殊召喚出来る

冥界より現れる、冥府の使者ゴーズ、カイエン」

「なっ！！」

無警戒の攻撃は失敗だったか

「アームズエイドを装備して  
ネクロバレーを発動  
ターンエンド」

「私のターンドロー  
私は手札からコピープラントを召喚  
そしてコピープラントを手札にもどし  
魔天使 ローズソーサラーを特殊召喚  
ローズソーサラーとゴーズをオーバーレイ  
こいNo.11ビッグアイ!!!」

何!!!

「効果でトリシューラのコントロールを奪う」

「カイエンとトリシューラでダイレクトアタック!!!」

「俺はバトルフェーダーの効果発動」

「ターンエンドです」

俺の最後の手札は墓守の司令官

「俺のターンドロー  
このカードは!!!」

「何を引いたんでしょうか」

「俺は墮落した墓守発動」

このカードはフィールド上のネクロバレーを破壊し、さらに手札の

墓守を捨てて発動出来る  
デッキよりカードを3枚ドローする」

墮落した墓守

フィールド上のネクロバレーとなの付いたカードと手札の墓守を捨てて発動する

カードを3枚ドローする

皆、力を貸してくれ！！

俺の額にけて重なる事のない

蒼い三つの紋章が重なった

ドロー！！

このカードは！！

「俺は精神操作を発動し

ビッグアイのコントロールを得る

そしてビッグアイの効果でトリシューラのコントロールを得る

そして救世虎 セイヴァータイガーを召喚」

俺のフィールドにドゥローレンをミニサイズにしたような虎が現れる

「俺はトリシューラとバトルフェーダーに救世虎 セイヴァータイガーをチューニング

集いし星々が 裁きを下す槍にならん

いまこの聖戦に終わりを告げる力を

シンクロ召喚

氷結界の守護龍 セイヴァー・トリシューラ！！」

氷結界の守護龍 セイヴァー・トリシューラ

レベル1 2 3 5 0 0 2 7 0 0

一ターンに一度相手がプレイするカードを三枚まで除外する事が出来る

そしてその枚数×200ポイントこのカードの攻撃力はアップする自分のエンドフェイズ時にこのカードはエクストラデッキに戻る

救世虎 セイヴァータイガー

レベル2 0 0

このカードをシンクロ素材とする場合、

「セイヴァー」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「セイバー・トリシューラの効果でカイエンを除外する

これが最後だセイバー・トリシューラでダイレクトアタック!!  
アイシクルブラスターバーン!!」

「ぐああああ!!」

0

「アキさん!!」

俺は倒れたアキさんを抱えた  
そしてそのまま帰ろうとした

あれ、脚が動かない

なるほどセイバー・トリシューラの召喚にはかなりの体力を使っ  
て訳か

俺はそう考えながら倒れた

その十分後に遊星達に発見されて  
病院送りにされた

## 第二十四話 動き始めた敵VSアキさん！？（後書き）

ようやく精霊世界編で手に入れたオリカが出せました

セイバー・トリシューラ

もう少しかつこいい名前がイイです

もしなにか案がある人がいたら

送っていただけると嬉しいです

そして墮落した墓守は

聖地であるネクロバレーを守る墓守に邪念がさして墓守が墓あらし  
をしてしまうという

支離滅裂なオリカです

図々しくてすいませんが

感想、クロスをやってくれる人募集中です

よろしく願います

**第二十五話 新たな出会い！？（前書き）**

お久しぶりですセロリです

今回は新しいキャラクターが出ます

お楽しみ下さい



少女は中年の男のデュエルディスクからデッキを取り出す  
そしてライターを取り出して火をつけようとする

「や、やめろー！！俺のデッキを、俺のデッキを返してくれー！！」

「ヒヤハハハハハハ！！悪役が、雑魚の遠吠えを聞くとても思った  
かい??」

負け犬は負け犬らしくきゃんきゃん吠えてりやいいんだよー！！」

そしてライターの火を近づけようとする

少女の手はアンチノミーと呼ばれた青年につかまれる

「やめる、そこまでする必要は無いんじゃないか??」

僕達の目的はシグナー達に僕達のような存在を教える為の行動なんだ  
から」

「ちえっ！！つまんねえの」

「そして、いつかきつとシグナー達は僕達と言う敵を乗り越えて  
新しい未来を掴んでくれるはずだ」

「よく、アンチノミーはそんな幻想を信じられるね

僕には理解しかねるよ、そんなのただの現実逃避じゃん  
なら僕は今の悪役と言う立場を思いっきり楽しもうと思うよ」

「そうか、それが君の考えなんだね  
アクエリオ」

「ああ、そうだよ」

「なら、一つ楽しい事をして見ないか?？」

「何々!! 教えてよ」

「それはね——————」

「ああ、確かに面白そうだね、それやって見よ」

関原 雄吾

「遊星、あれなに?？」

俺は玄関の前にある物を指差してそういった

「俺に聞かないでくれないか」

そこには、俺と同じくらいの年と思われる少女が倒れていたのだ

???

「ここは??」

「気が付いたかい??」

私に男の人が声をかけて来たか、かつこいい  
そう思ったけど私は黙った

「はい、もう大丈夫です」

「何であんな所に倒れていたんだい??」

私は少し考えてこう言った

「すみません、何も思い出せ無いです  
自分の名前も、自分が何者なのかも」

私がそう言うと、彼は少し驚いた様な顔をして

「それは、辛いね

記憶が無いというのは、自分が楽しかったと思っただ事や、いやだっ  
た事、つらかったこと、苦しかった事、嬉しかった事  
色々な事が思い出せなくなるなんて  
ここで一緒に暮らさないか??

一つ一つ、ゆっくり思い出して行けばいい  
俺たちに何ができるかは分からないでも手伝える事は手伝いたいから

私は直ぐに頷いた

「お願いします!」

「あ、ああ

わかった、ってこれって俺が勝手に決めていいのかな??

まあ遊星なら分かってくれるだろ

そいや、君の名前はとうしよう」

「私ですか、名前、名前

えーと、うーん、そうだ!!

私の名前はアイス!!アイス・クレミング」

「わかった、アイスだね

俺は関原 雄吾、よろしくね

皆は雄吾って呼ぶから、呼び捨てで構わないよ」

「わかった、よろしくね雄吾」

そう言って私は笑った

関原 雄吾

「わかった、よろしくね雄吾」

彼女はそう言うと、笑いかけて来た  
いや、これは落ちそうになる  
何にかは言わない、言っではいけ無いんだ

「ああ、よろしくな  
君は決闘ってできるかい」

俺は興味がわいて聞いて見た

「えーと、決闘ですか  
それってどういう物ですか??」

ああ、あの幽霊みたいに決闘の事だけは覚えているとかは無いのか

「えーと」

俺は説明した

「これですか」

説明が終わると、彼女は自分のベルトから一つのデッキを取り出した

「そう、それだよ!!」

彼女はデッキを持っていたので、俺は少し驚いた  
いや、こっちの世界なら当たり前か

「ルールはだいたい分かったので私と決闘して下さい」

「いいよ、それじゃあ」

「決闘！」

第二十五話 新たな出会い！？（後書き）

因みにアンチノミー君は

遊星にアクセルシンク口は教えますが

ブルーノとしては現れません

これからもセロリをよろしくお願いします

## 第二十六話 加速する運命VSジャンク(前書き)

こんにちはセロリです

最新話をやっと、書き上げました

部活が今日、明日とあってつかれてるんですよ  
では、最新話をどうぞ

## 第二十六話 加速する運命VSジャンク

関原 雄吾

「決闘!!」

オッス、オラ雄吾

今、アイスと決闘を始めるんだ

因みにディスクは使っていないぞ

室内でディスクを使ったら何か恐ろしいことになりそうだからな

アイスのデッキはどんなデッキ何だ

ワクワクするぜ!!

「私のターンドロー

私はジャンクフォアードを特殊召喚

そしてジャンクシンクロンを召喚します

二体をチューニング、シンクロ召喚

ジャンクガードナー」

ジャンクガードナー???意外に厄介だな

「カードを一枚伏せてターンエンドです」

「俺のターンドロー

俺はモンスターをセットしてカードを二枚伏せてターンエンド」

これは俺の墓守を少し改良した

新しいデッキだ、アイスには悪いが実験台になって貰おうか

「私はエンドフェイズにトゥールスリーンフォースを発動してXセイバー パシウルを特殊召喚します  
私のターンドロ―

私はジャンクブリーダーを召喚します

そしてチューニング、シンクロ召喚

大地の騎士 ガイアナイト」

二体目のシンクロモンスターか

「そして死者蘇生を使ってジャンクシンクロンを特殊召喚します」

ジャンクシンクロンを蘇生する??

何故だ

「さらに私はジャンクサーバントを特殊召喚します

チューニング、シンクロ召喚

ジャンクバーサーカー」

やべー!!こいつは不味いか

「ジャンクバーサーカーで守備モンスターを攻撃します、そして効果でダメージ計算せずに破壊します」

NO!!!俺の墓守の偵察者が――――！！！！

「そしてガイアナイトでダイレクトアタックします」

「ライフで受ける」

1400

「ターンエンドです」

「俺のターンドロー」

俺はワームゼクスを召喚して効果でヤガンを墓地に  
そしてヤガンの効果でセットする

ターンエンドだ」

「私のターンドロー」

私はバーサーカーの効果を発動します  
ブレイダーを除外してゼクスの攻撃力をダウンさせます」

「チエーンして毒蛇の供物発動！！」

ゼクスとバーサーカー、ガイアナイトを破壊する」

「あっ！！」

あぶねえゼクスが引けなかったらどうなっていたことが  
因みに俺の今使っているデッキは墓守とワーム、光と闇のメタデッ  
キの融合デッキ  
カオスメタビートだ！！

「ターンエンドです」

「俺のターンドロー」

俺はヤガンをリバースしてガードナーを手札に戻す  
そしてヤガンでダイレクトアタック」

3000

「モンスターをセットしてターンエンド」

「私のターンドロ」

私はカードを一枚伏せてターンエンドです」

「俺のターンドロ」

俺は偵察者をリバースして番兵を特殊召喚、三体でダイレクトアタック」

「偵察者のダメージをスピリットフォースで無効にしてパシウルを手札に加えます」

1000

「俺は偵察者と番兵をオーバーレイ  
エクシーズ召喚、ヴェルズ・ナイトメア  
ターンエンドだ」

「私のターンドロ、私はモンスターをセットしてターンエンドです」

「俺のターンドロ」

俺はヤガンでセットモンスターに攻撃」

「パシウルは戦闘では破壊されません」

「メイン2、地割れ発動してパシウルを破壊」

「パシウルが!!!」

「ターンエンドだ」

「わ、私のターンドロ―

私はカードを一枚伏せてターンエンドです」

「エンドフェイズにサイクロン発動してセットしたカードを破壊するよ」

必殺奥義 エンドサイク

「ファイナルターンドロ―!!」

俺はヤガンで攻撃!!と行きたいがヤガンでトドメってなんかしつくり来ないから墓地の光と闇を除外してカオスソルジャー 開闢の使者を特殊召喚

いけー!!

カオスソルジャーでダイレクトアタック!!開闢の双剣 ツインカオスブレード!!」

0

「負けました、雄吾って強いんだね」

「アイスもかなり強かったよ」

「ありがとうございます」

もっと強くなれる様に頑張ります」

そう言って彼女は笑った

ダメだ直に見る事が出来ない

あれは凶器のレベルだー！

???

僕は近くの公衆電話に入った

「もしもし、アンチノミー」

『どうしたの??』

「君に教えてもらった遊びをやって見たんだけどさ」

『どうだったの??』

「あの、それが言いにくいんだけどさ  
シグナーの一人に惚れたかもね」

『嘘！！えっあのアクエリオが恋をしただって』

アンチノミーがわざとらしく電話の向こうで叫んだ  
後ろから「マジかよ」とか「嘘だろ」とか色々聞こえて来るんだけど  
皆は僕の事をどう見てるんだよ！！

「何か失礼な事しか聞こえて来ないんだけど」

僕が少し怒った声で言うと  
アンチノミーは笑ってからこう言った

『ゴメン、ゴメン』

いや、僕達の中じゃアクエリオは本当は女では無いんじゃないか、  
か、アクエリオには女心が無いとか色々な噂があるからね』

「何!!それ初耳何だけど

そんな風に皆は僕を見ていたんだ、僕はれっきとした女だよ!!」

『分かってるって』

「そして、皆に言っておいてね

次あった時は O H A N A S H Iがあるって」

『怖い怖い、みんなーアクエリオに見つかったら殺られるよ  
リアル鬼ごっこだね』

「冗談はこれくらいにして

という訳でもう少しこの遊び続けさせて貰うわ」

『いいのかい、いつか君はその愛する人を裏切らなきゃいけないよ  
るんだよ』

「それでも、僕の自己満足だけど、少しでも長くあの人と居たいんだよ」

『そうか、なら僕は君を応援するよアクエリオ、頑張れ』

アンチノミーはそう言って電話を切った

昨日アンチノミーに向かつて現実逃避とか幻想とか色々言ってたけど僕もあと少し、少しだけでいいからこの幻想ゆめを見て居たくなっちゃったよ

あいつら、どう料理してやるのかな

僕を馬鹿にした事を公開させてやるよ！！

アンチノミー

アクエリオ、君も今は僕と同じ世界を見ているんだね

希望に満ちた世界、この世界をきつと彼らなら守ってくれるはずだ

そうしたら、アクエリオ

君だけでもどうにかこの世界に生きさせてやらないとね

ZIONEにどうにか出来ないか聞いてみるとするか

でも絶望デイスペア オフザナイトの騎士団はイリアステルの中でも唯一の独立した組織

そしてその中でも真の絶望と呼ばれたデイスペア

彼は凄い力を持っている

しかし、僕はデイスペアよりもあいつから嫌な感じがするんだ

アクエリオ、気をつけるんだよ  
あいつは何かを企んでいる  
あいつは何か不気味な感じがする

「アンチノミー、どうかしたのか??」

「あつ、デイスペアか  
少し考え事をね」

「デイスペアか  
もうその名では呼ぶなこの時代に絶望の騎士団デイスペア オフザナイト全員のメンバーが揃  
った

私がデイスペアと名乗る資格はもう無いんだよ  
我が名は暗黒の弓矢だサジタリオ」

こうして運命はこの時代に色々なイタズラを、残して去って行った  
そして時代の流れは更に加速する

## 第二十六話 加速する運命VSジャンク（後書き）

久しぶりのデイスペア登場です

いや、デイスペアでは無くてサジタリオでしたね

実は作者が作るキメラモンスターがチートくさくなって行ってしま  
うんですよ

キメラモンスターのオリカを募集中です

使えるかどうかは分かりませんが

とにかく募集中です

よろしく願います

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4266v/>

---

遊戯王 蒼い竜の痣を持つ者

2011年11月26日23時55分発行